フルカラー版 機動戦士ブンダム THE ORIGIN

24



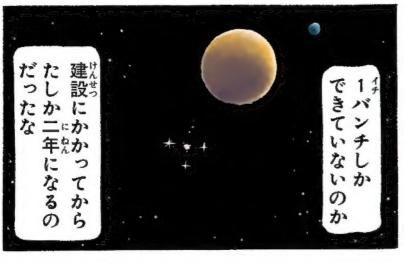




機重	助戦士ガ	ンダム THI	E ORIGI	N 24 —	持別編一
		$\mathbf{N} \cdot \mathbf{T}$			
	その前	夜			005
		キャスバル0	057		 037
		アルテ	イシア008	3	· 071
	400		740008	2 :	—149



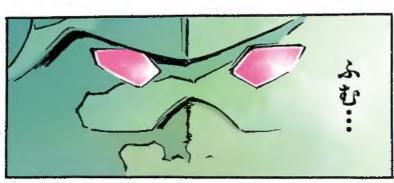










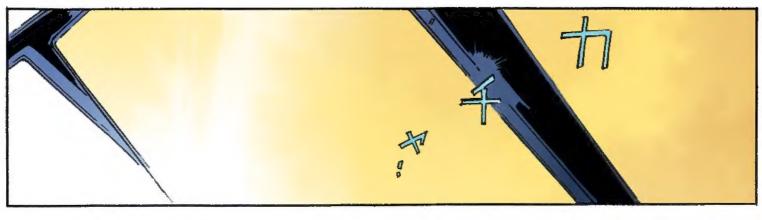


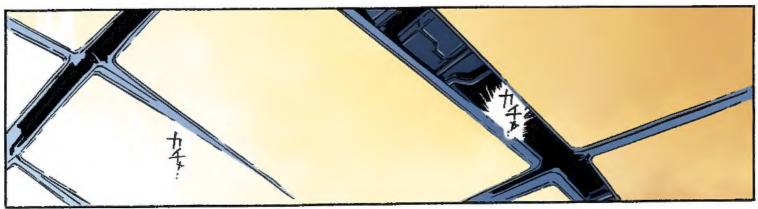


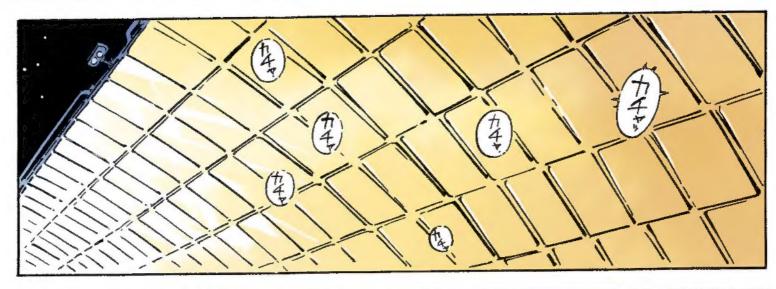




―その前夜―









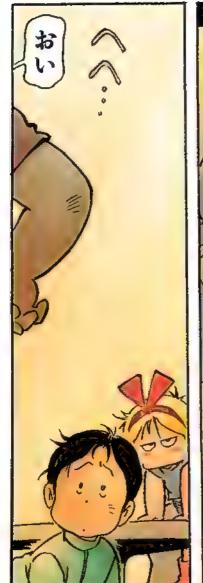












































レツだ!

不良の







































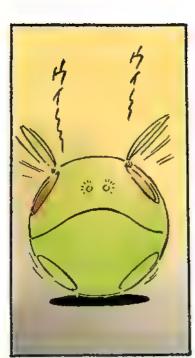
















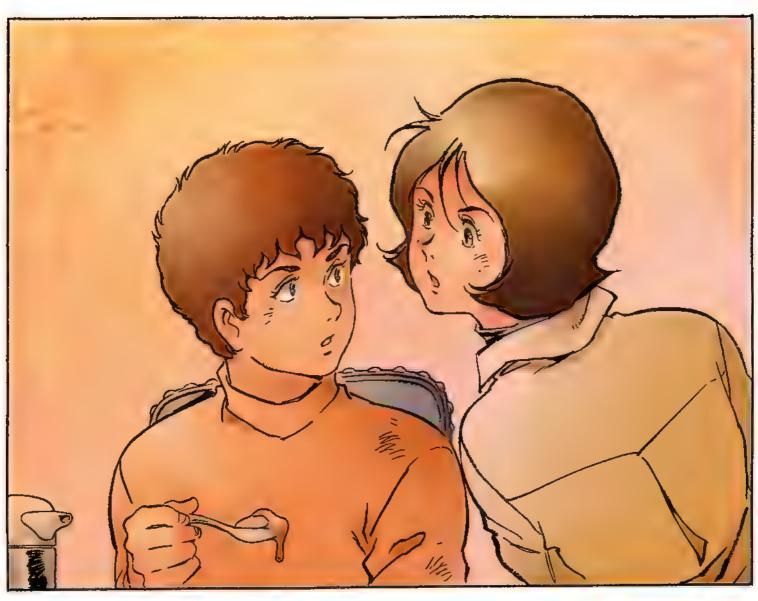














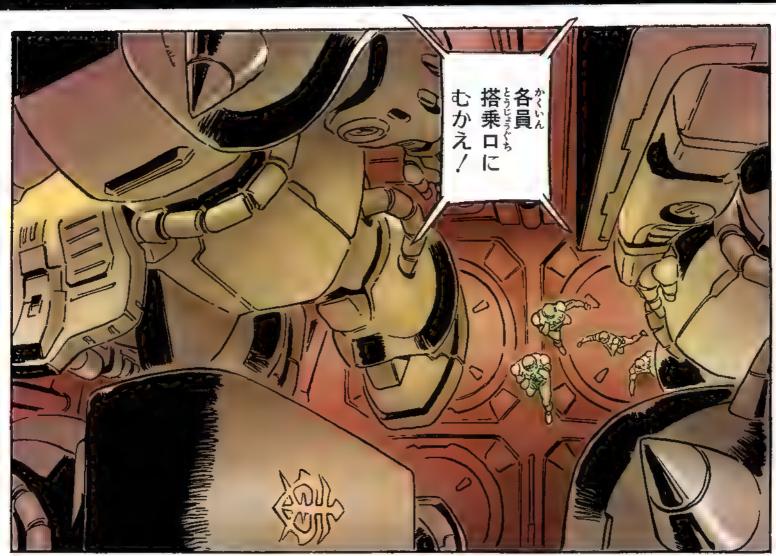


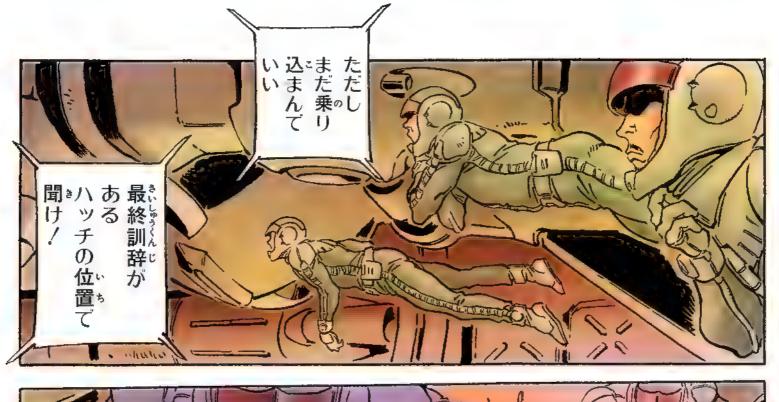




















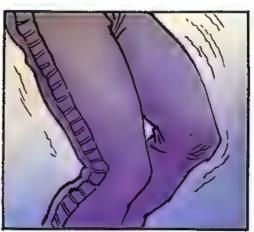




























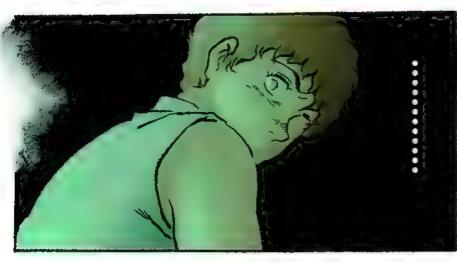






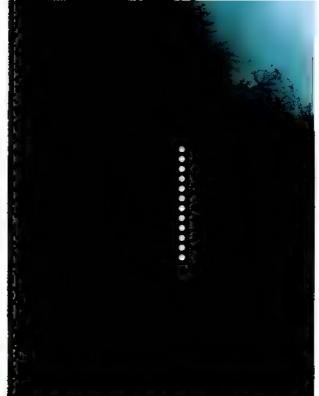


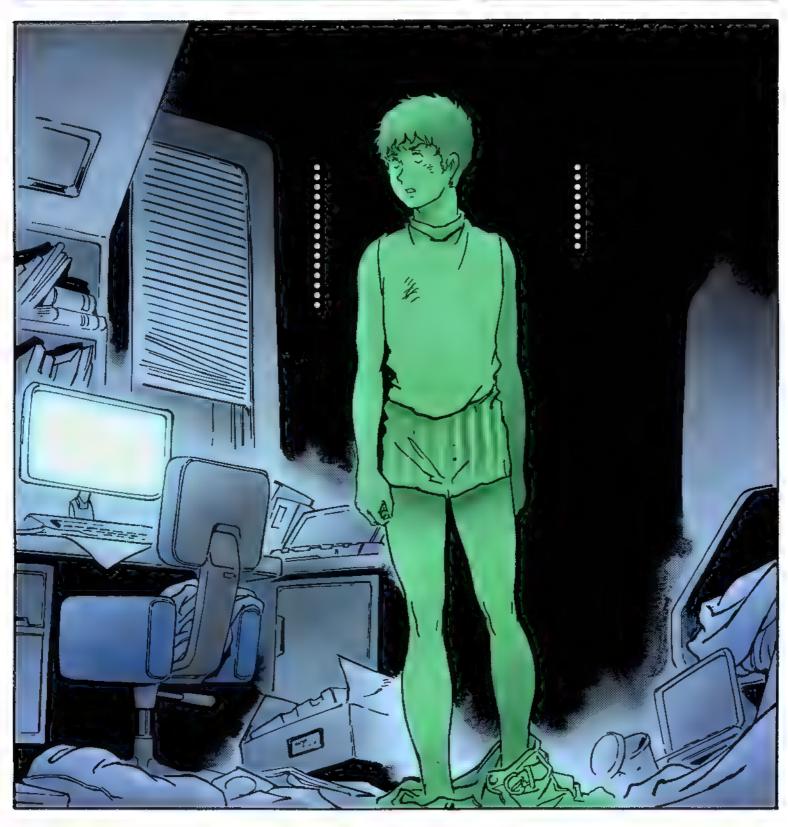


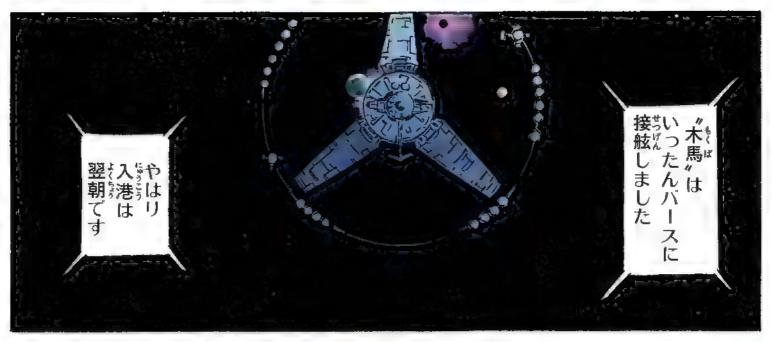












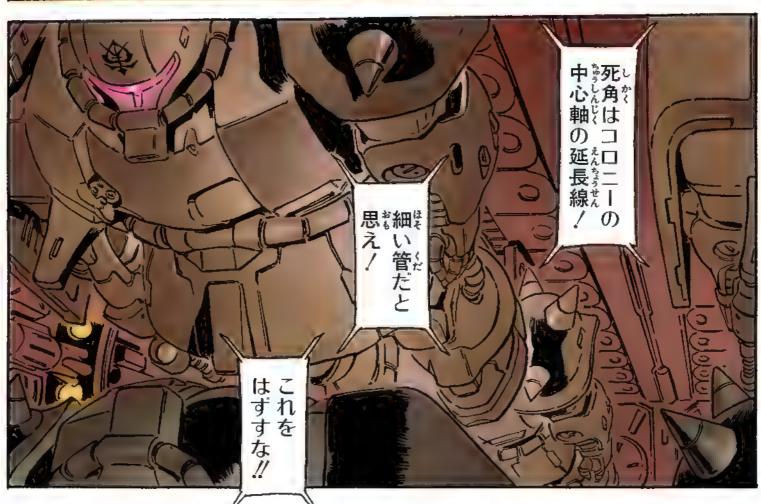












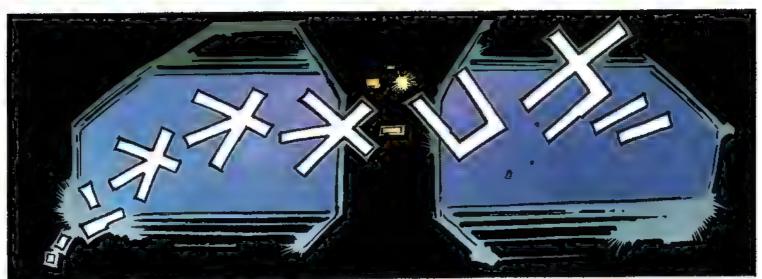








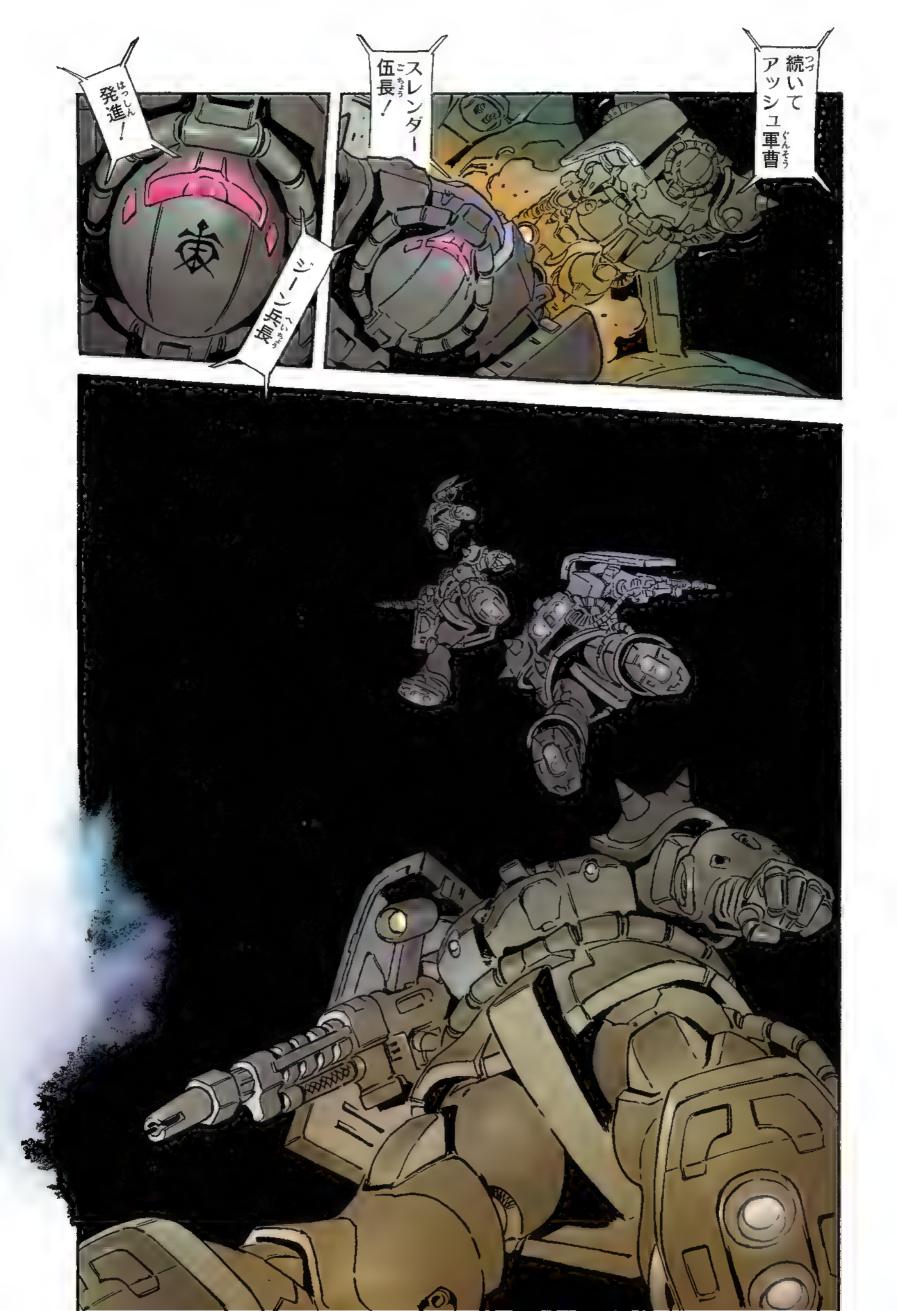












特別編の特別インタビュー

※当コミックスに収録された作品は、本編からちょっと脇道に それた番外編。そこで安彦先生に執筆当時のことを振り返っ ていただき、各作品に込めた思いを聞いてみました。

――サイド7潜入前夜を描こうと思った理由を教えてください。

安彦 1stガンダムのイントロって本当によく出来ているから野暮な話なんだよね。その「ちょっと前」を描くってのは。それなのに描いちゃった。どうしてだったかなア。担当編集に強要された? さあて……。

オリジナルストーリーならではの話作りの苦労を当時を思い 出して教えてください。

安彦 もうこの辺は遠い昔だから思い出せと言われても…。とにかく苦しかった、「出る」までは。でも最初が出るとあとはスルスルと…。何の話?

――このエピソードではサイド7の平和な日常とムサイ艦内のピリピリとした戦場現場感の対比が見事に表現されています。 当時どのような思いで二つの世界を描こうと思ったか教えてください。

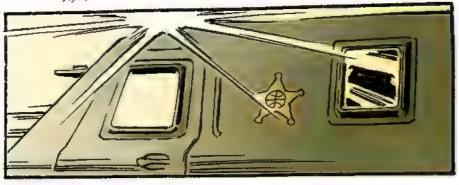
安彦 そうなんだよね。日常と非日常。 平穏に見える日常の壊れ易いはかなさ。 それってあるでしょ。 事故や災害もそう。 まして戦争は人の行いだから。 つらいよね。 よけいに。 ガンダムは「出だし」をはじめ、あちこちでそれを描いているけど、ダメ押ししておきたかったのかなア。 …今、思い出した。

摂助戦士ガンダム THE ORIGIN

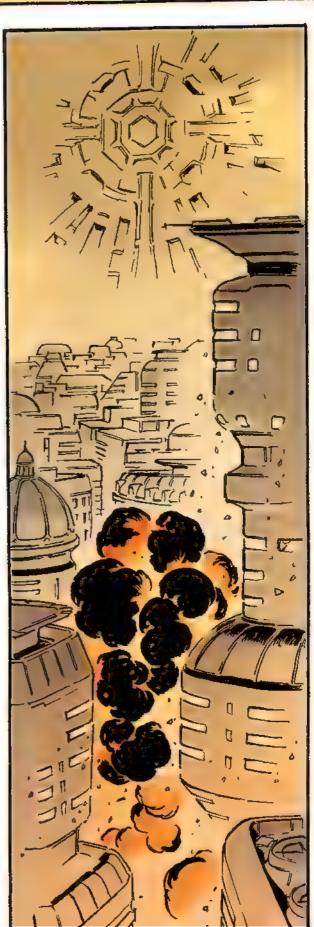




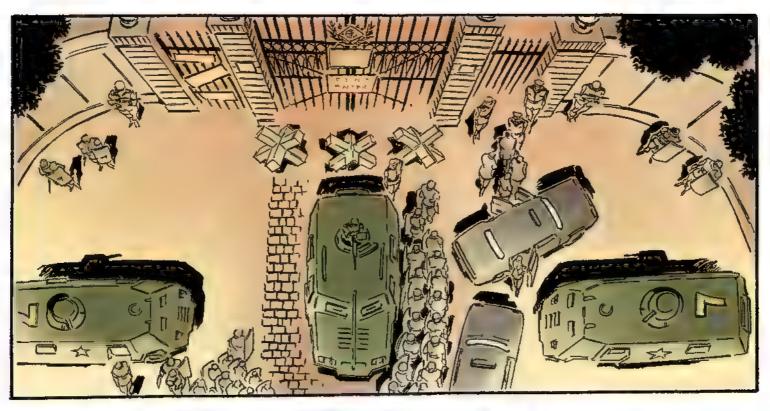




宇宙世紀 U.C.0057



















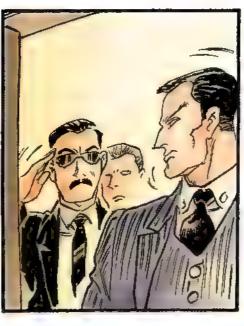




















































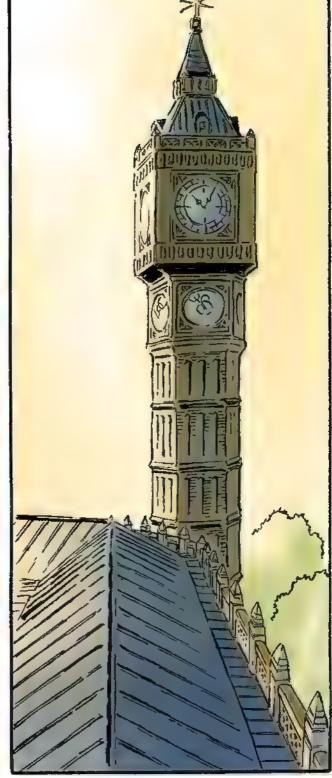














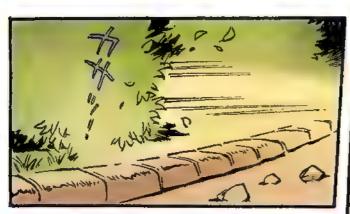




















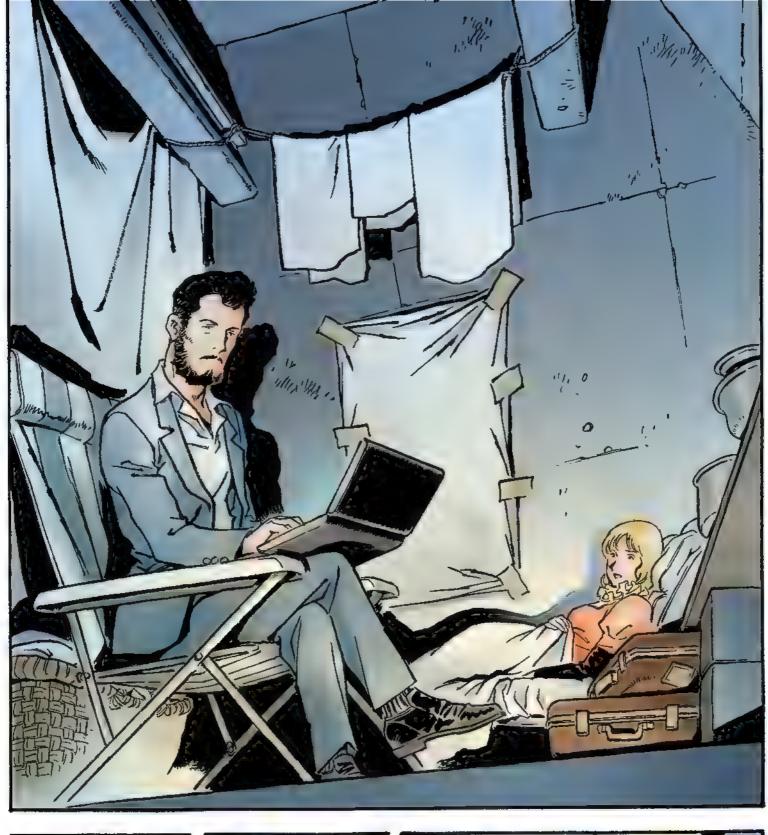




















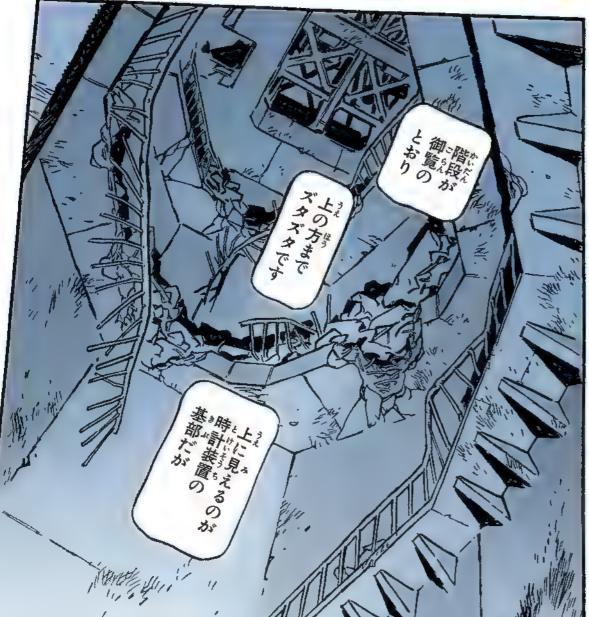
クラウレ







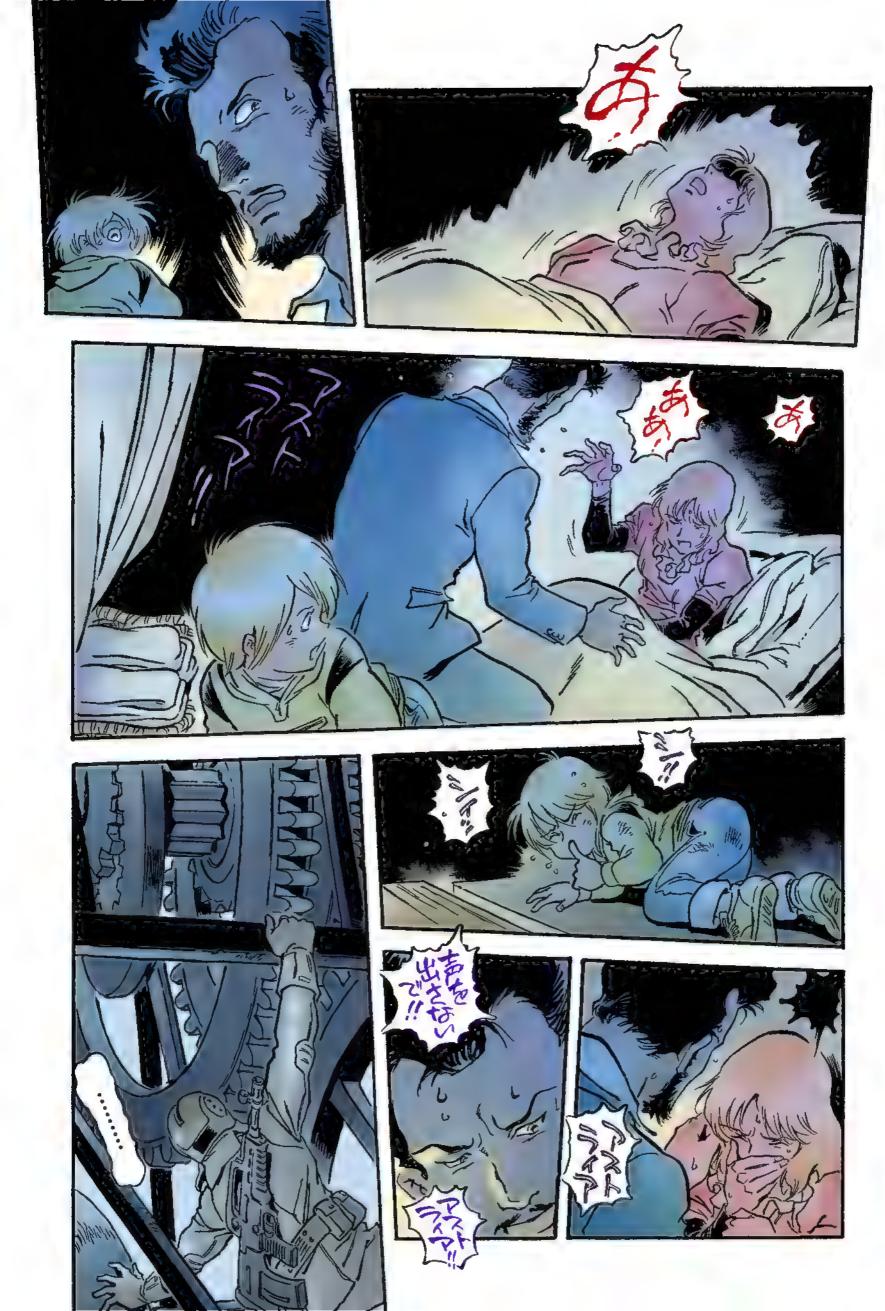


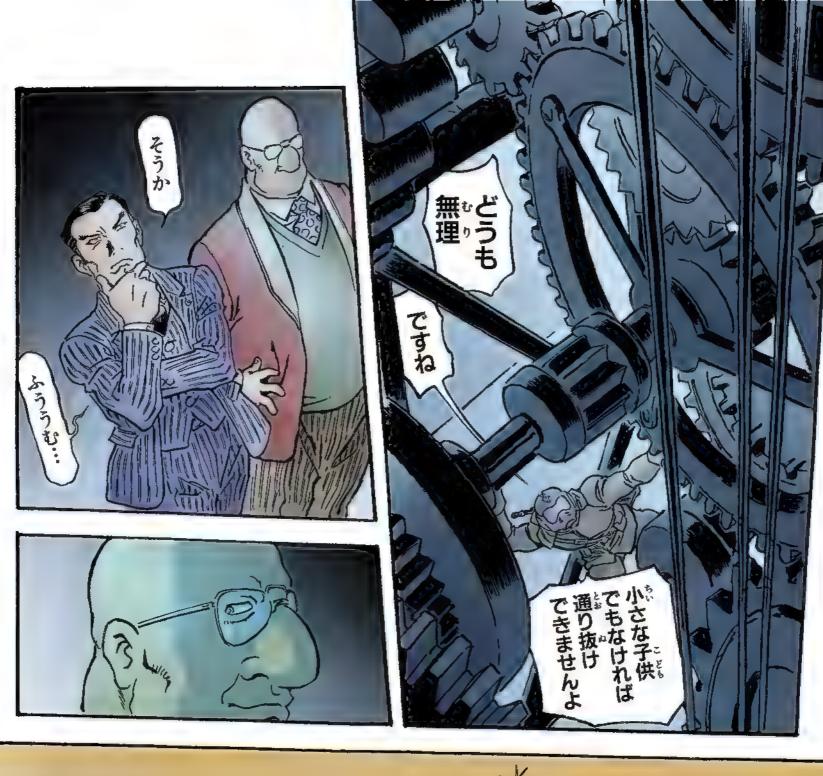




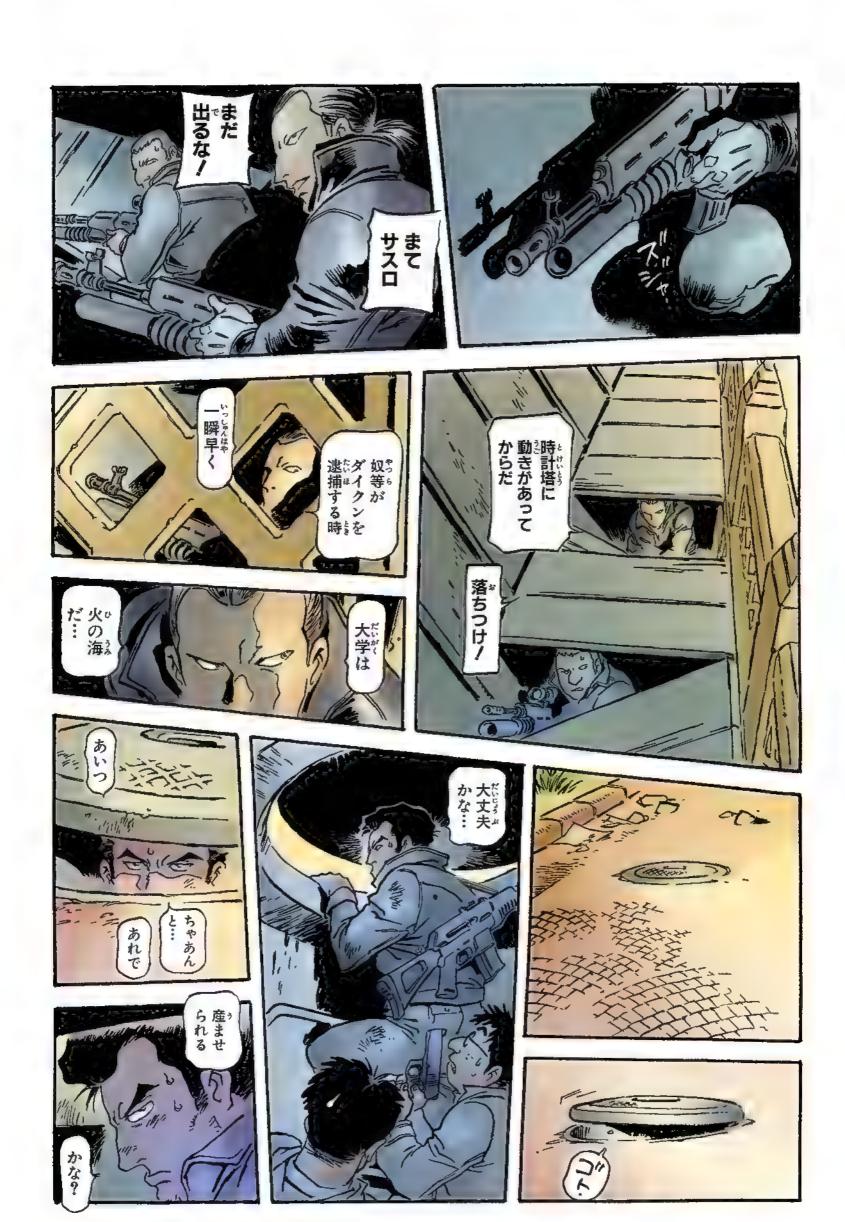


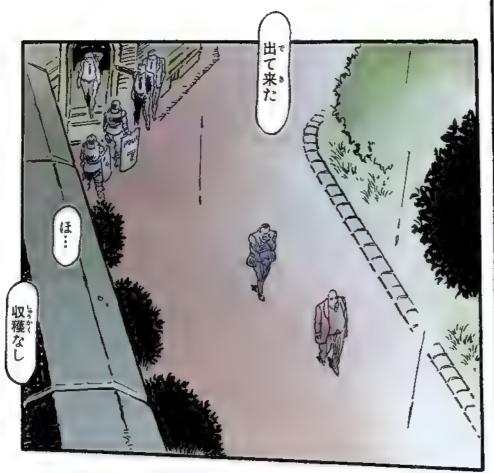






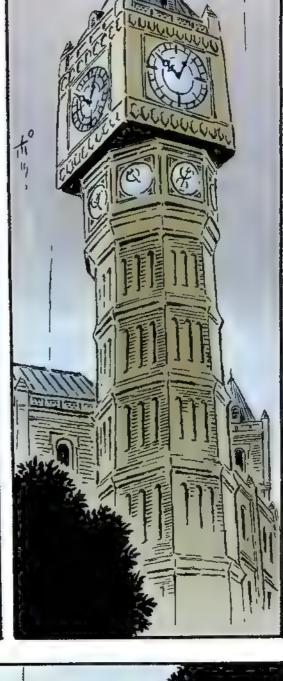












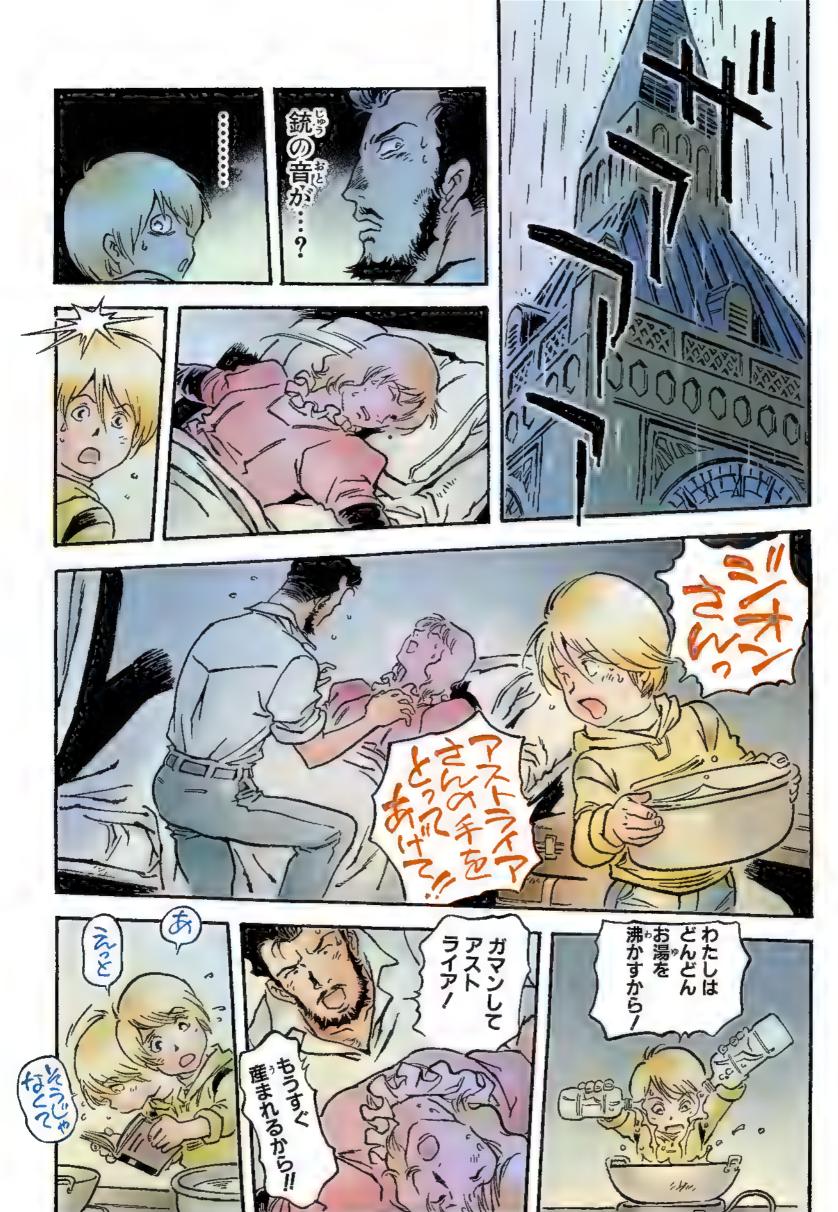
iti u









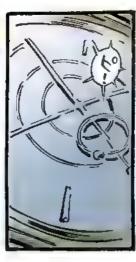


































特別編の特別インタビュー

一このエピソードではサイド3での学生運動が描かれています。革命、戦争が学生運動から始まったという設定はオリジンならではのものですが、戦争の発端が学生運動から始まったという発想に関してお聞かせください。

安彦 学生運動から「始まる」っていうわけじゃない。抵抗闘争の初期の姿って、こんなふうじゃなかったのかな…ということで描いた。かなり冗談入ってるけど、分って貰えるよね、その辺は。

シャア・アズナブル生誕が大学の時計台という発想はどこからヒントを得たのでしょうか?

安彦 『天体時計』のようなものをどこかで見て「使いたいな?」って思った。時計をはめるなら時計台。時計台といえばビッグベン。そして、時計台の在る所といえば大学……。そんな発想の順番だった気がする。『宇宙世紀』を一番さかのほった話。お楽しみください。

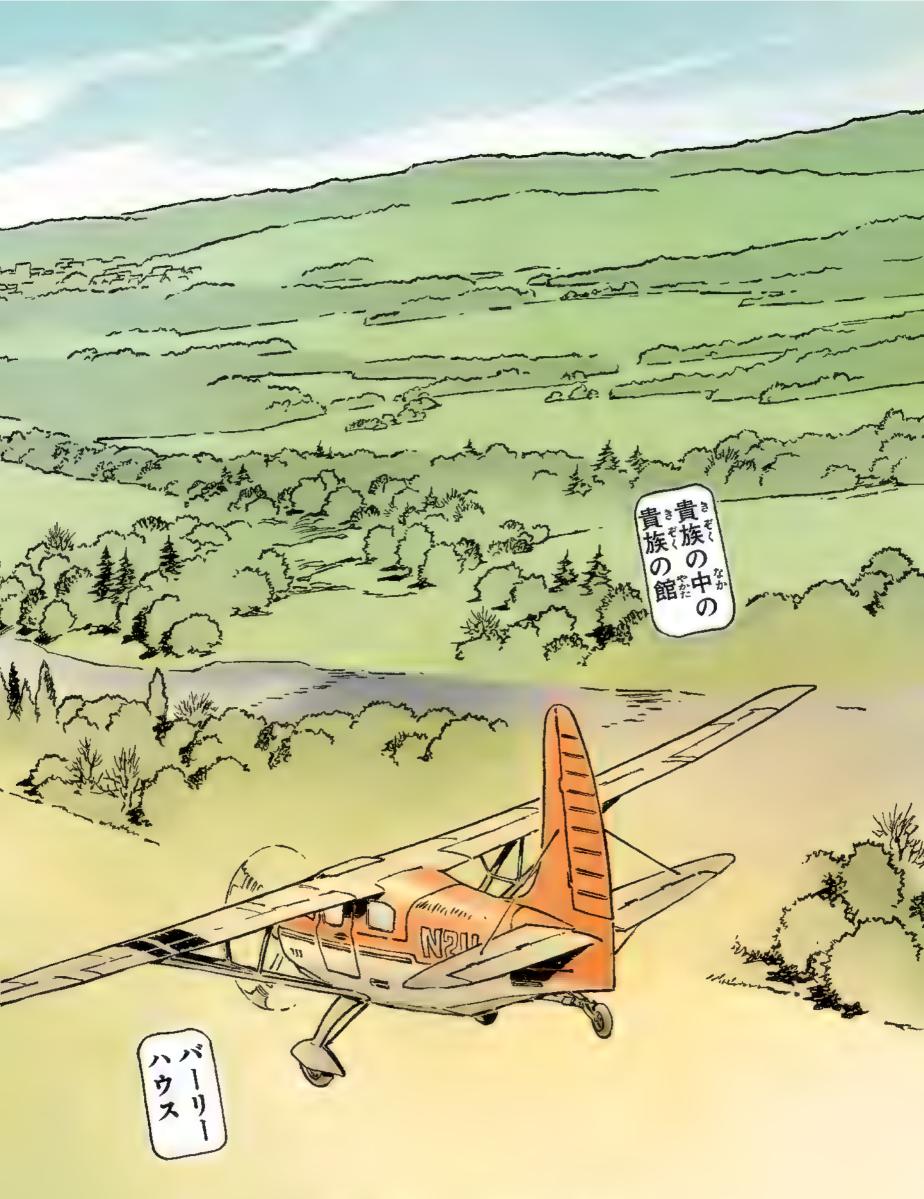
摂動版士ガンダム THE ORIGIN な見きそう なアえねぇ 記者だって?





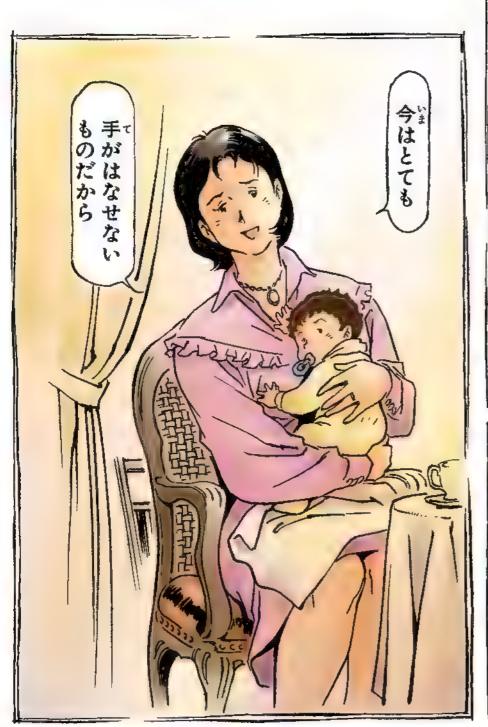






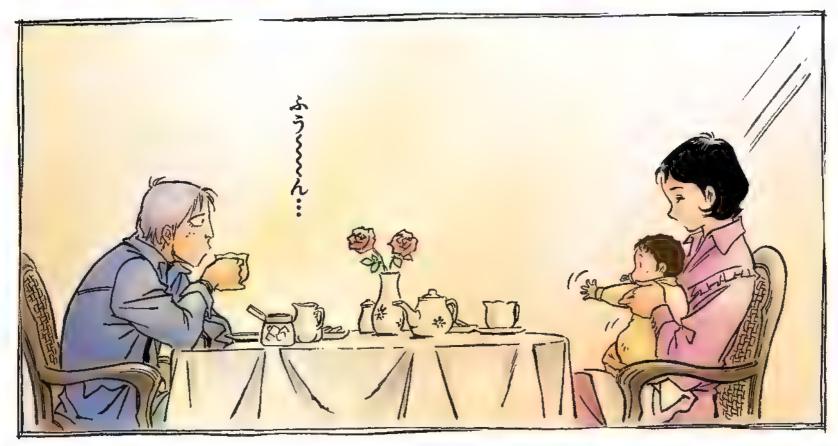
一アルテイシア0083















あいつに…











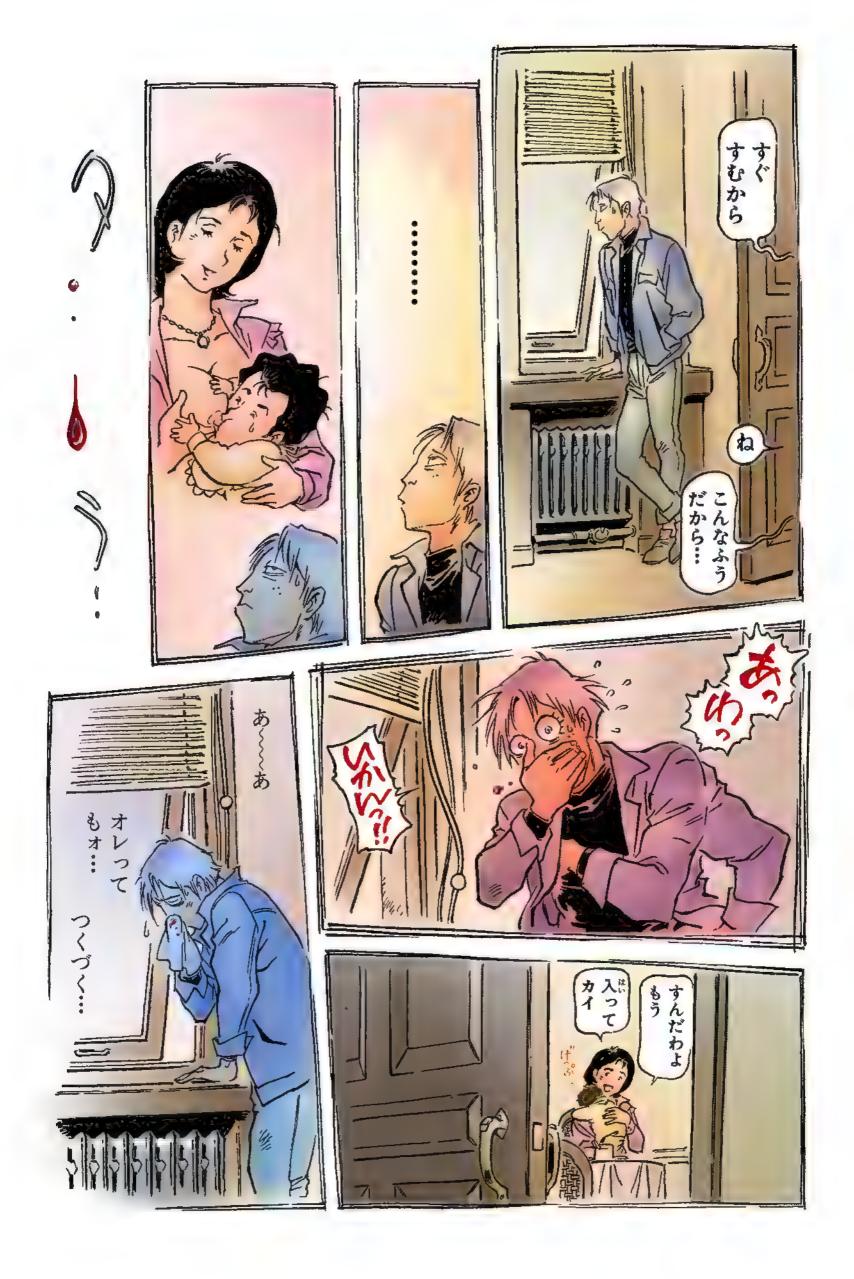






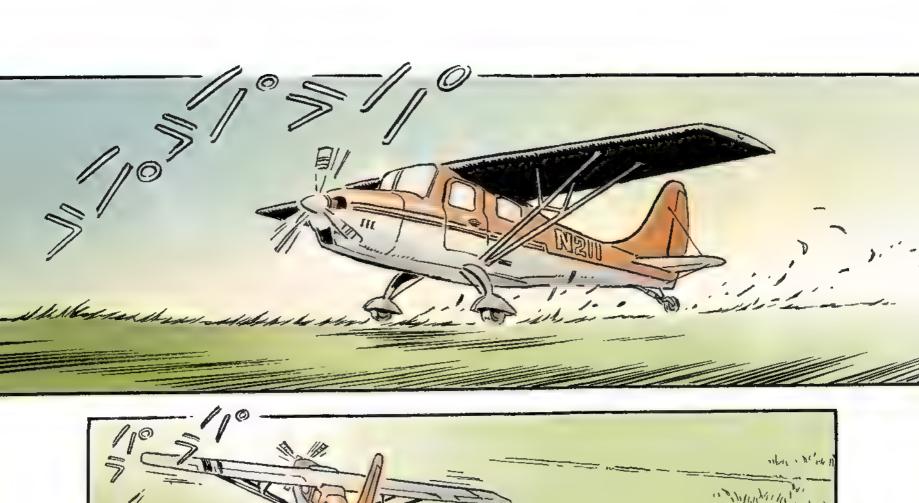










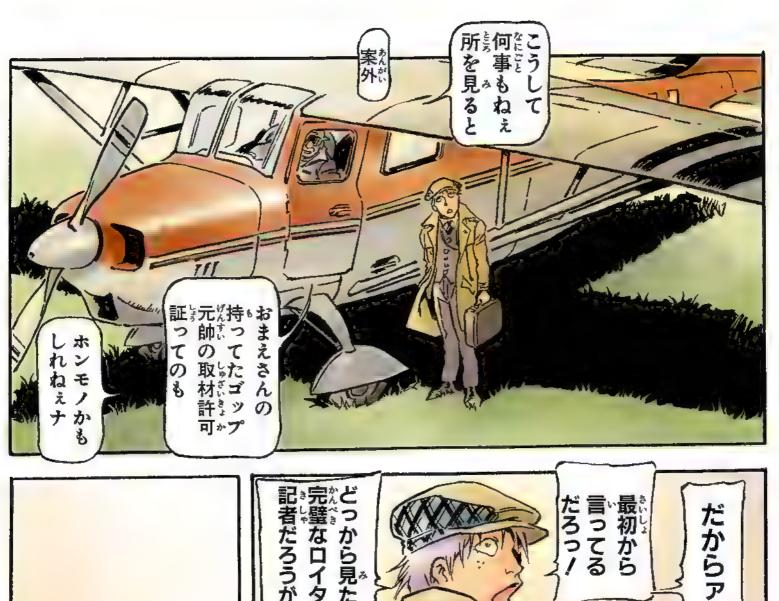














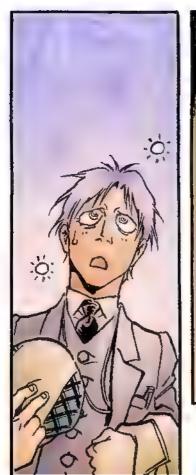


















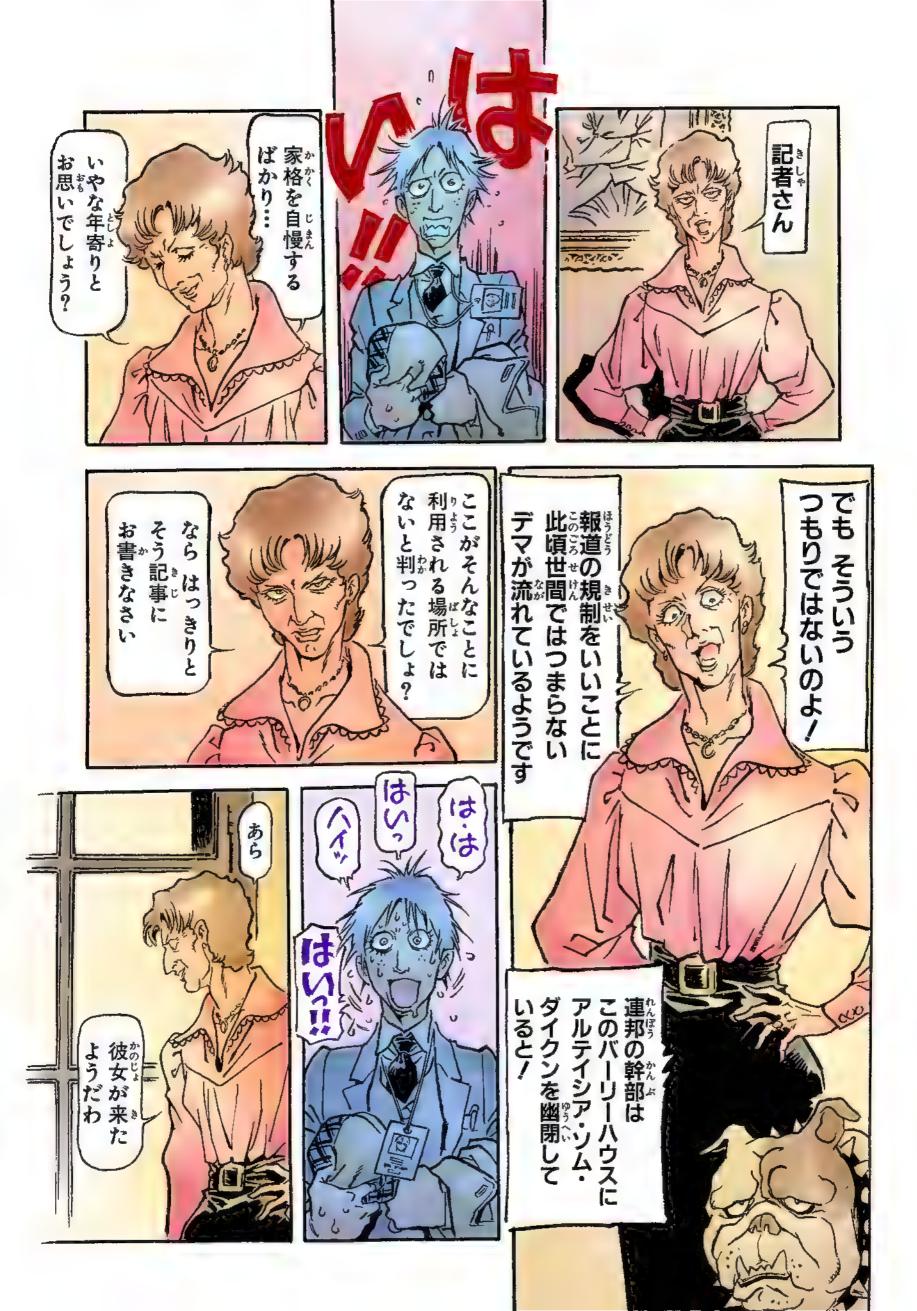














































































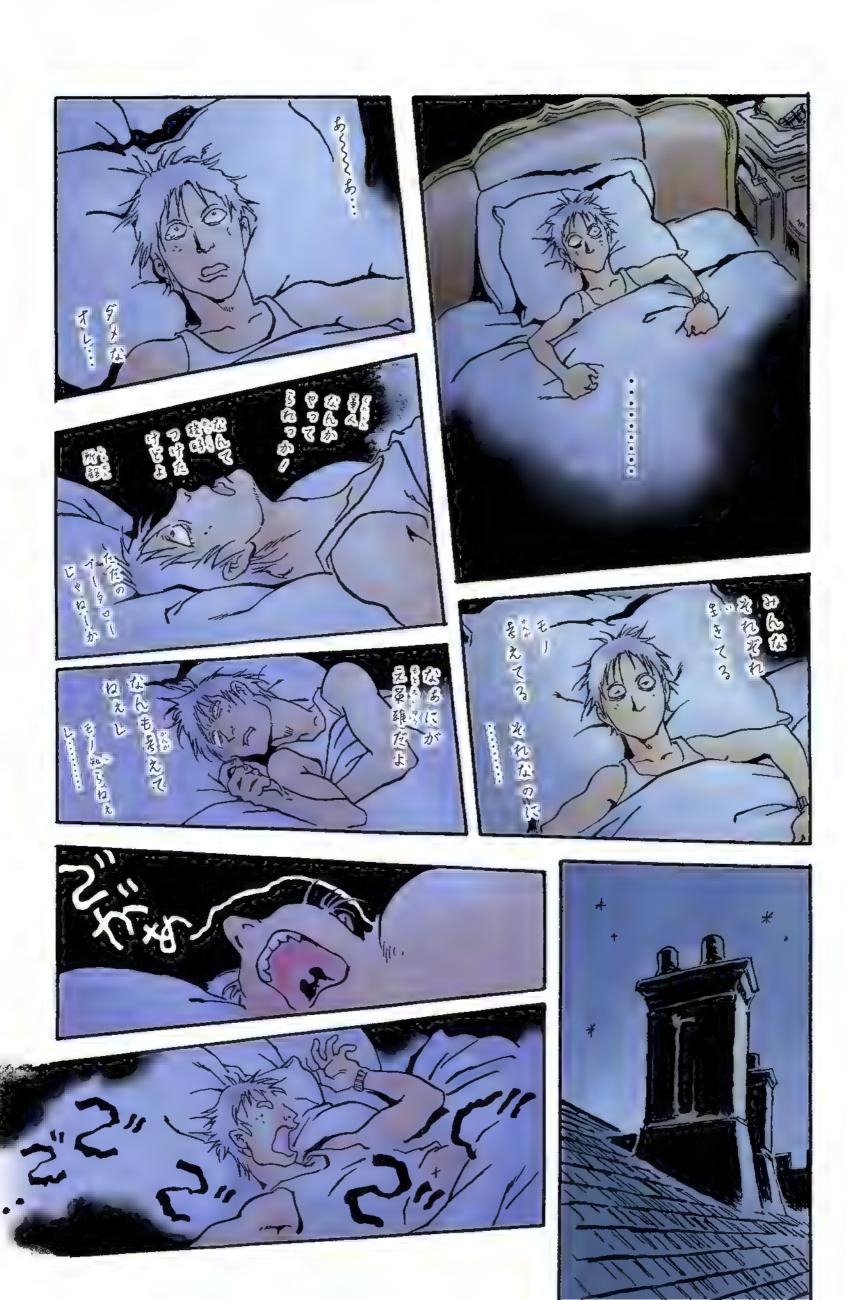


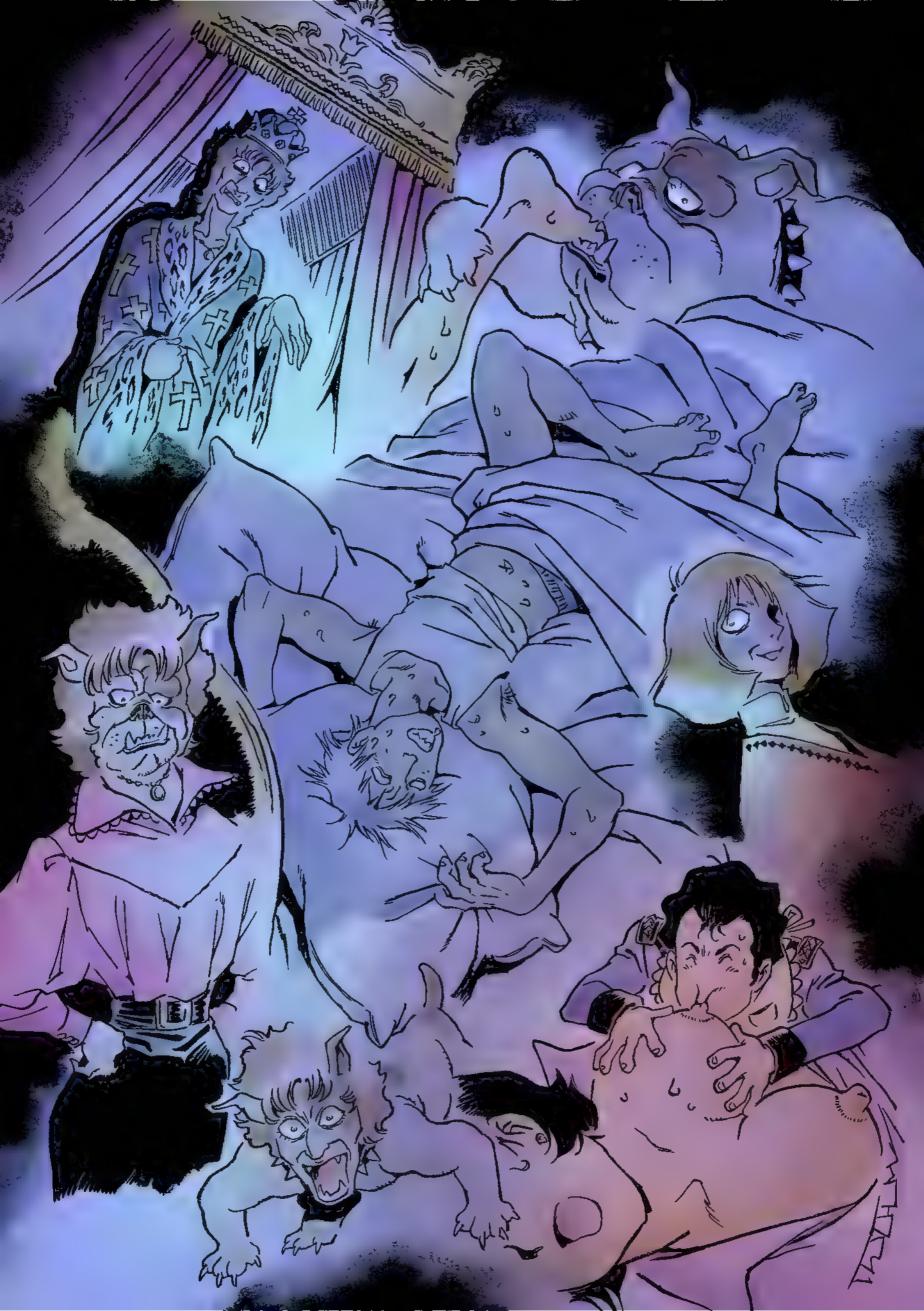








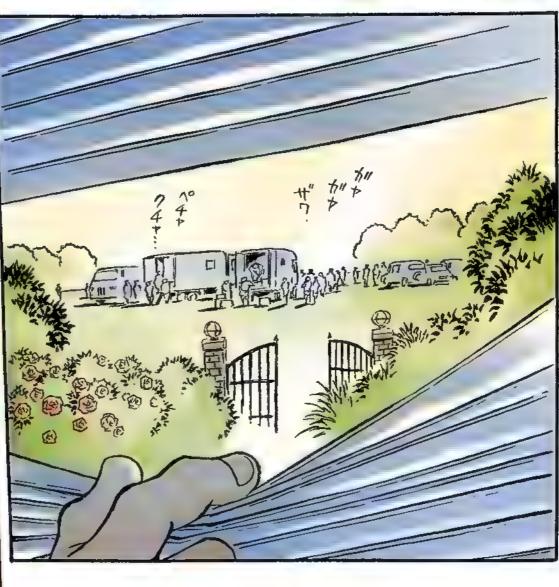






































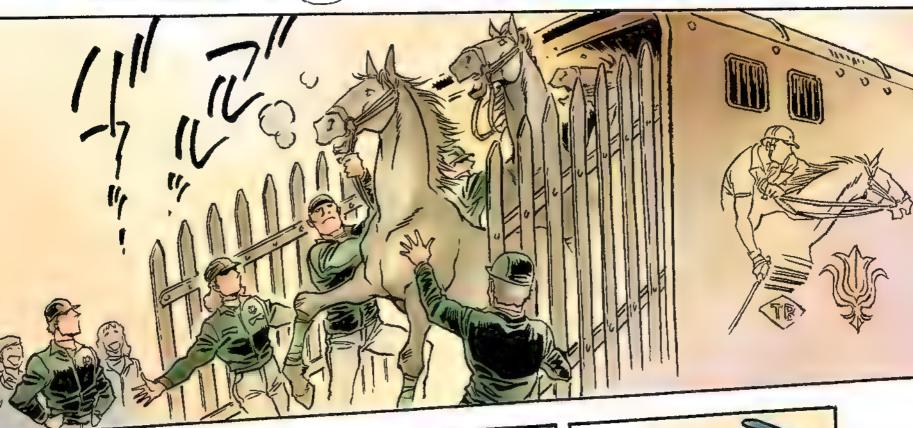








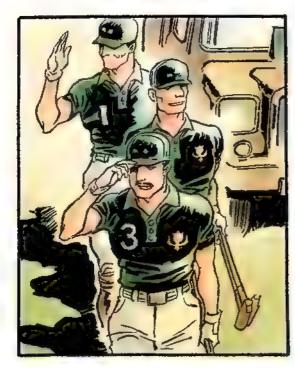


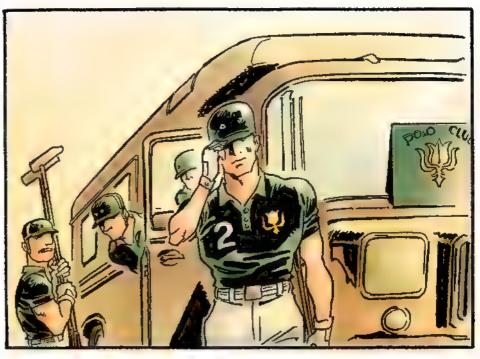






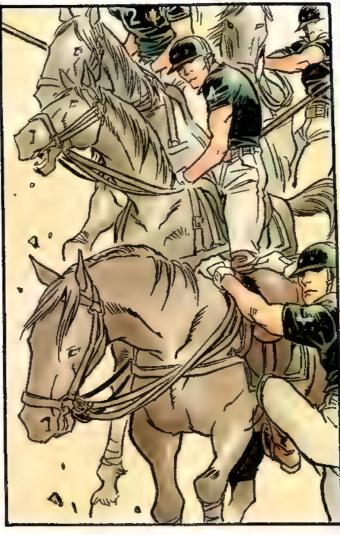








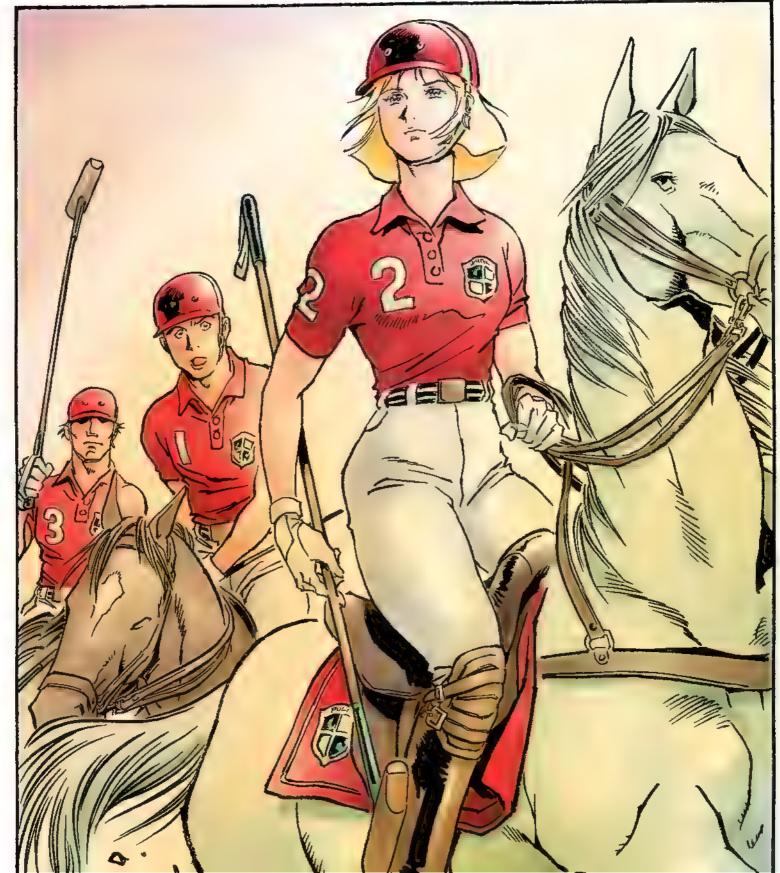


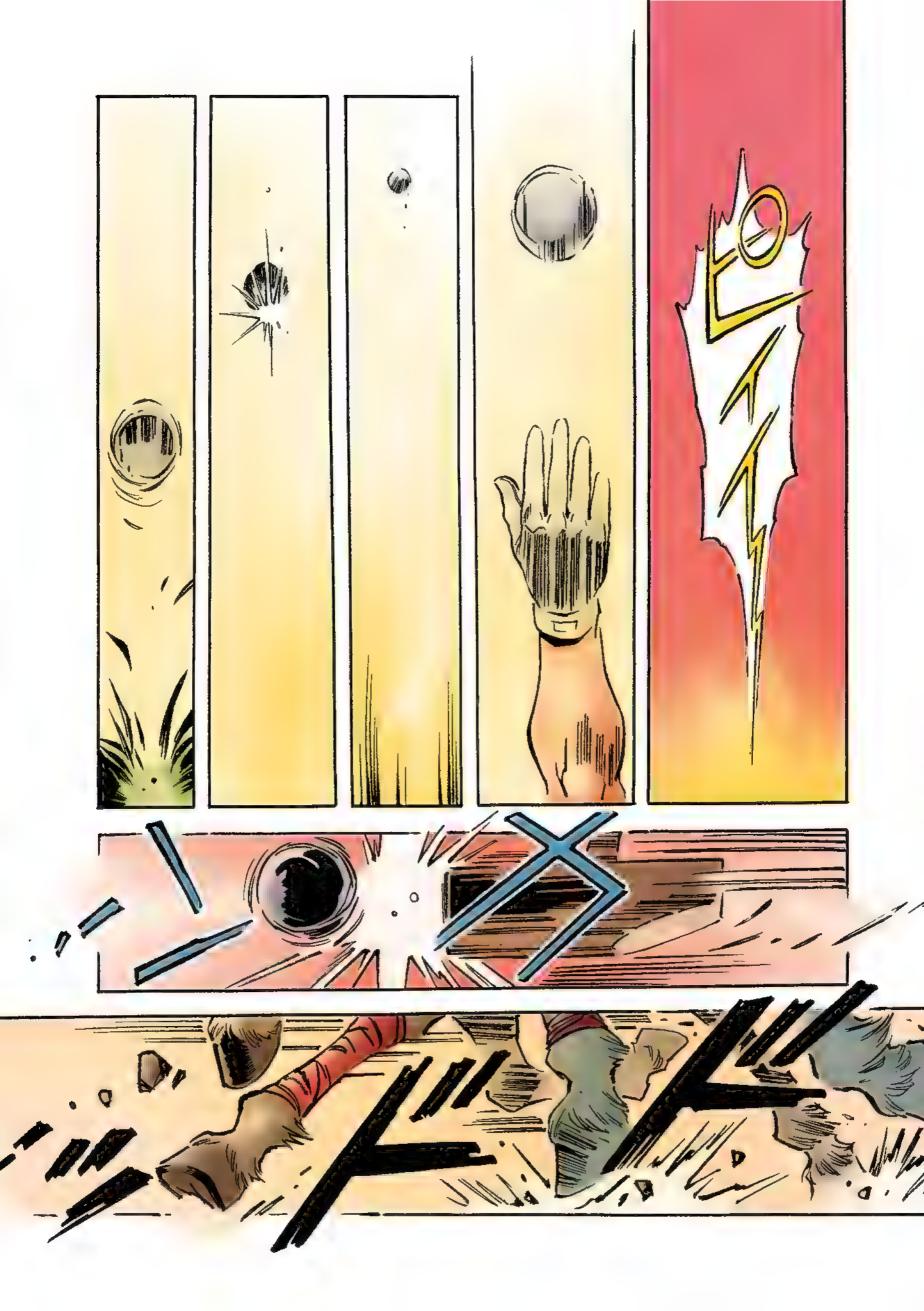






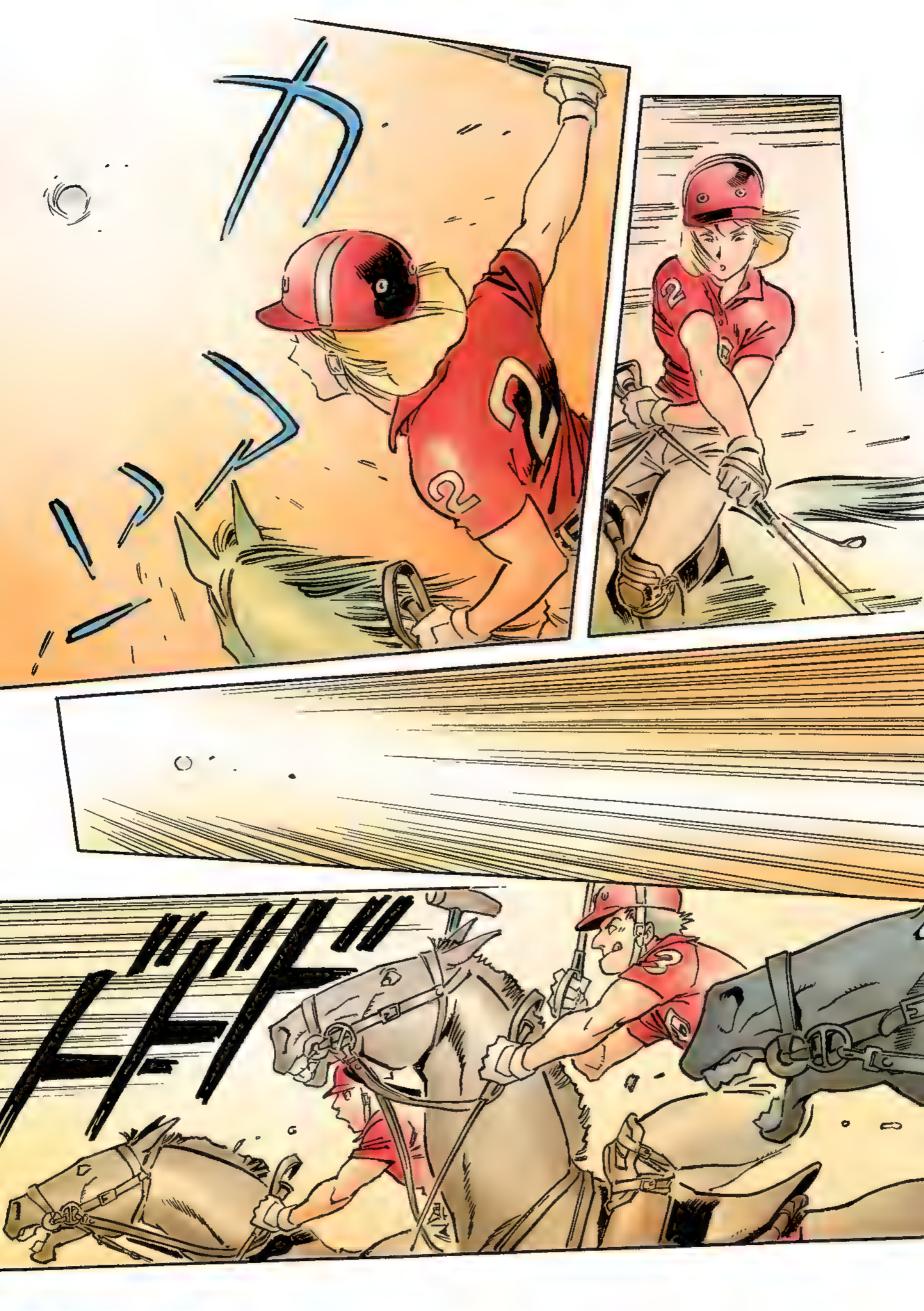


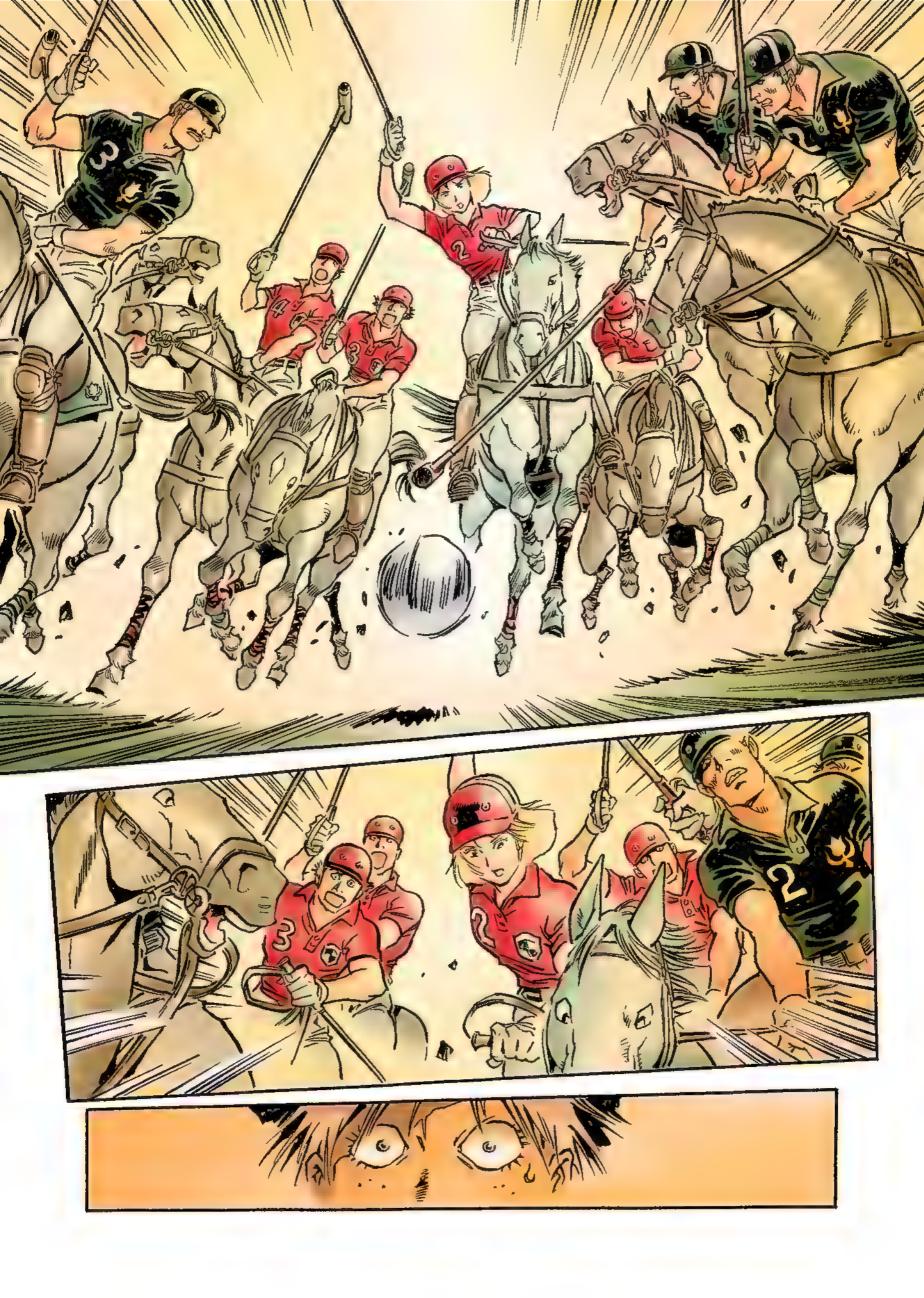




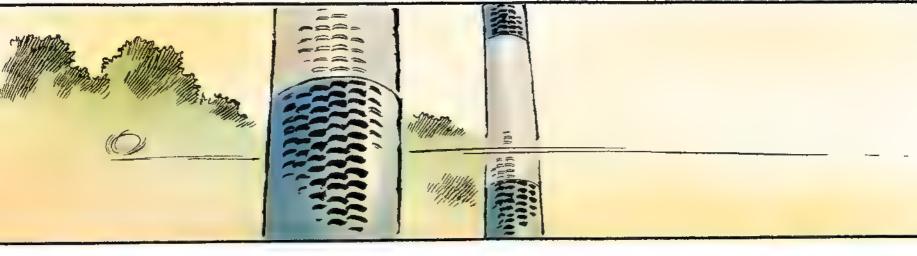












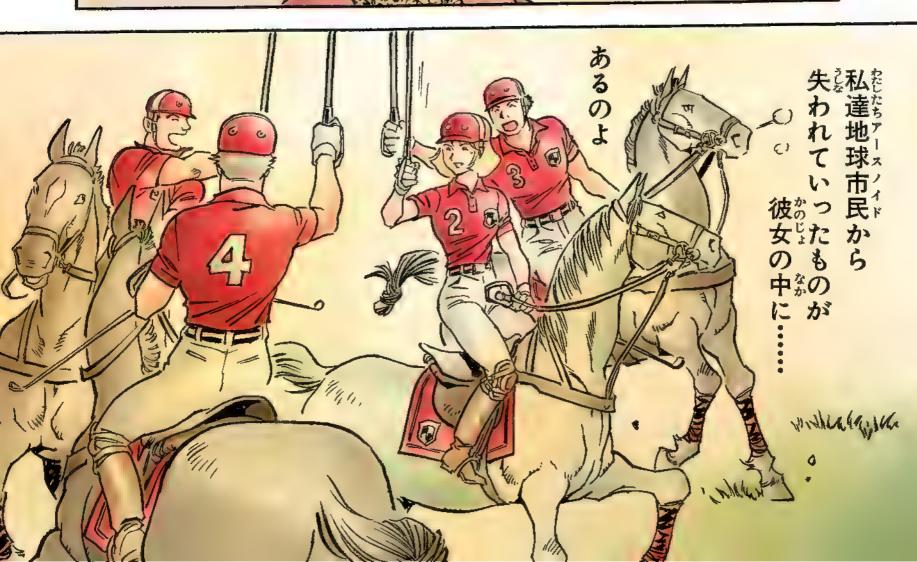




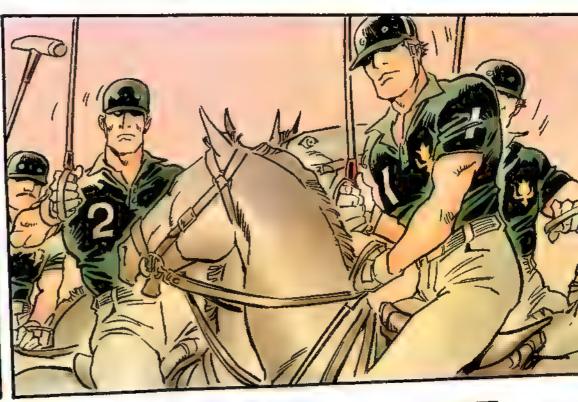


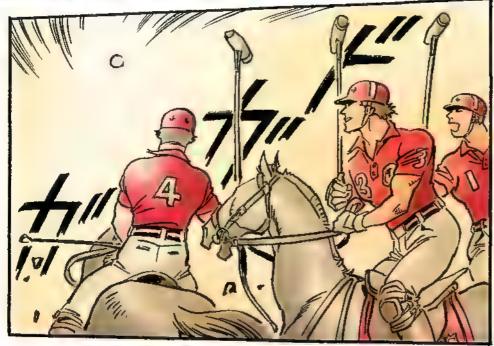














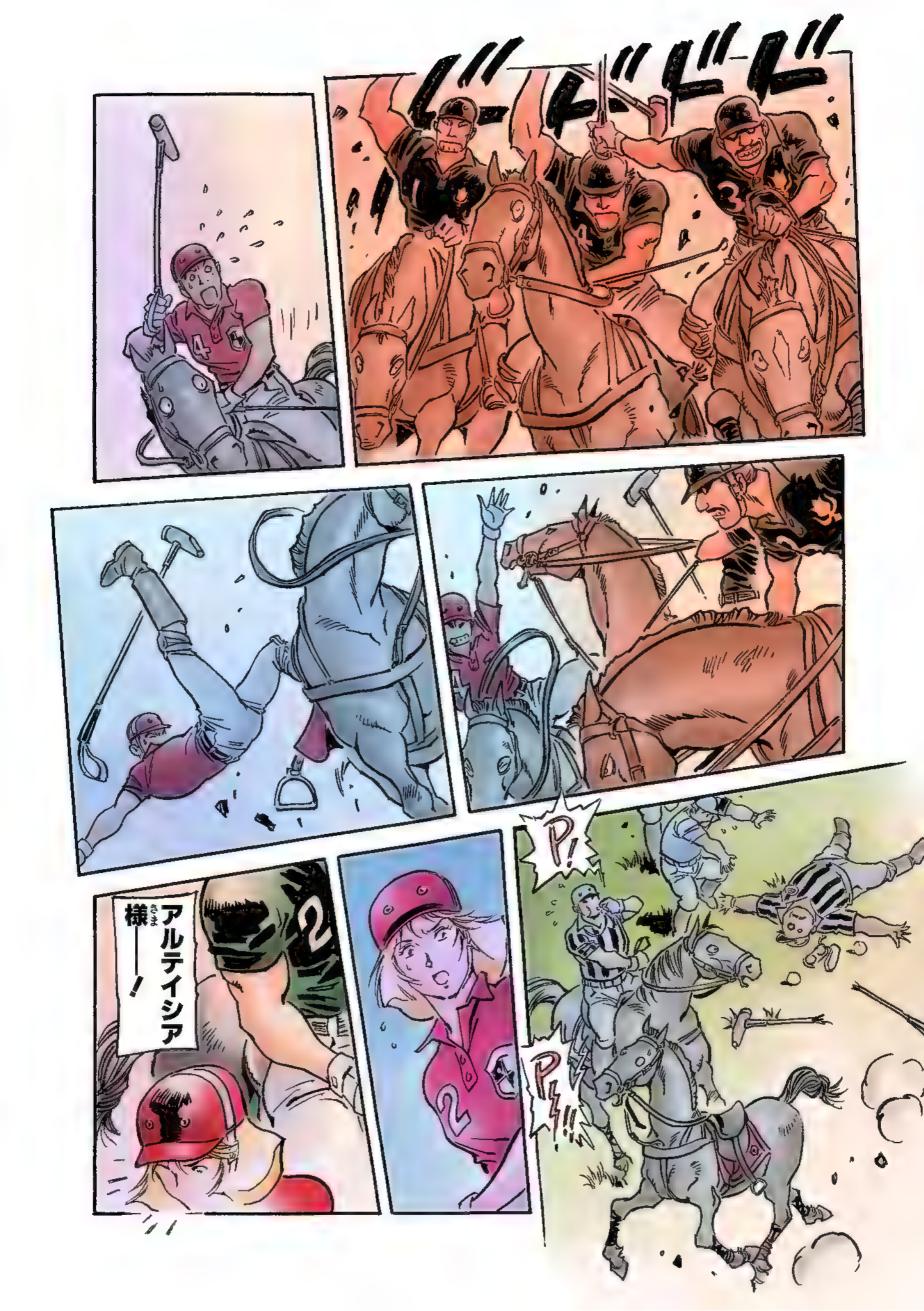


























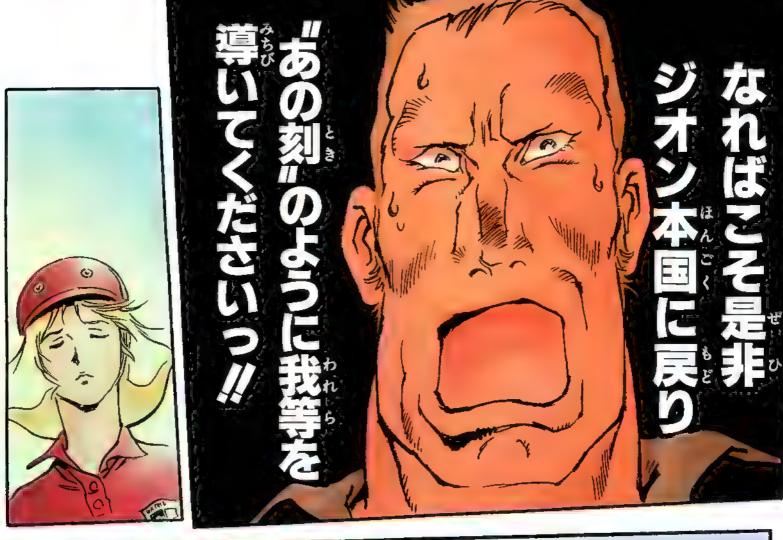
































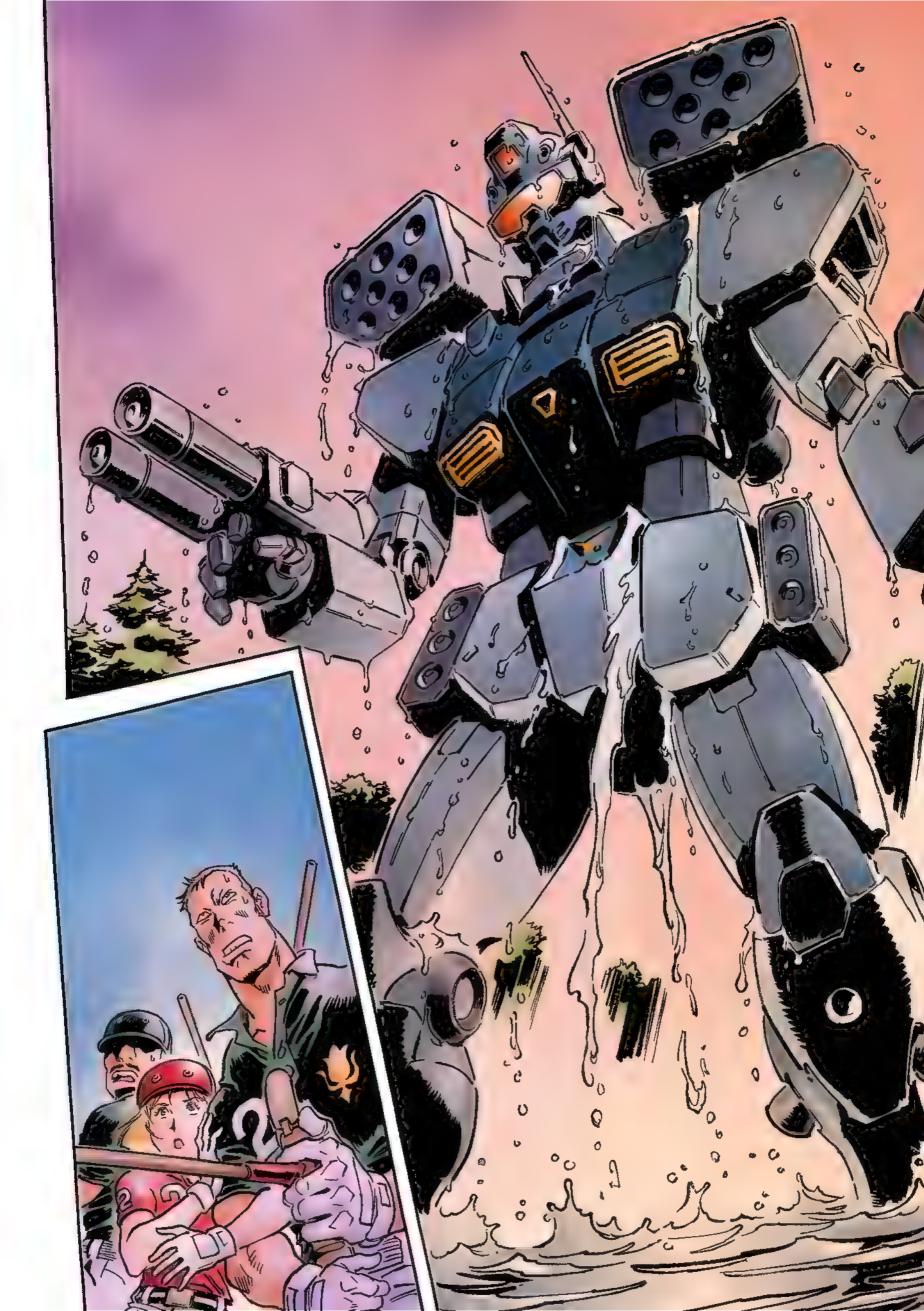












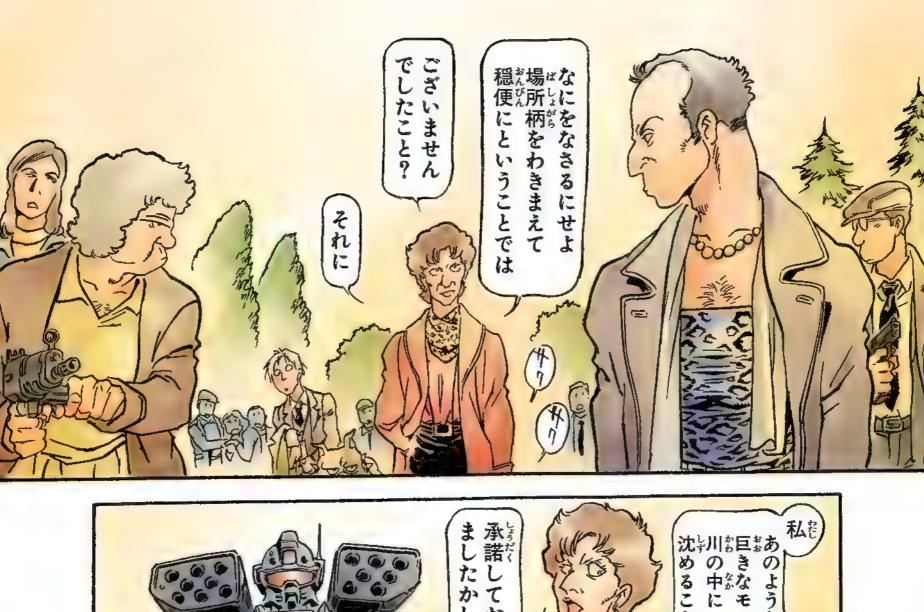


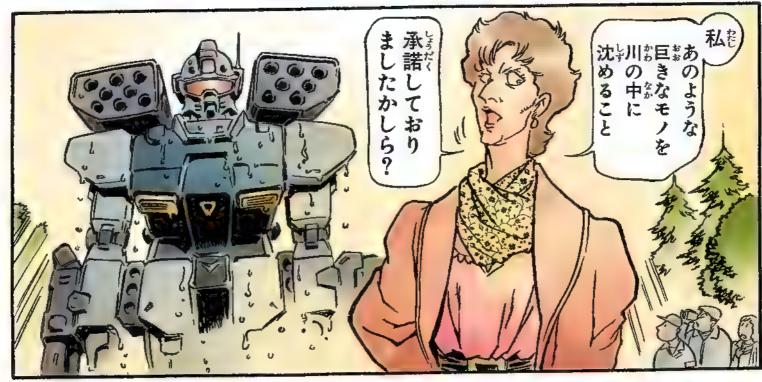








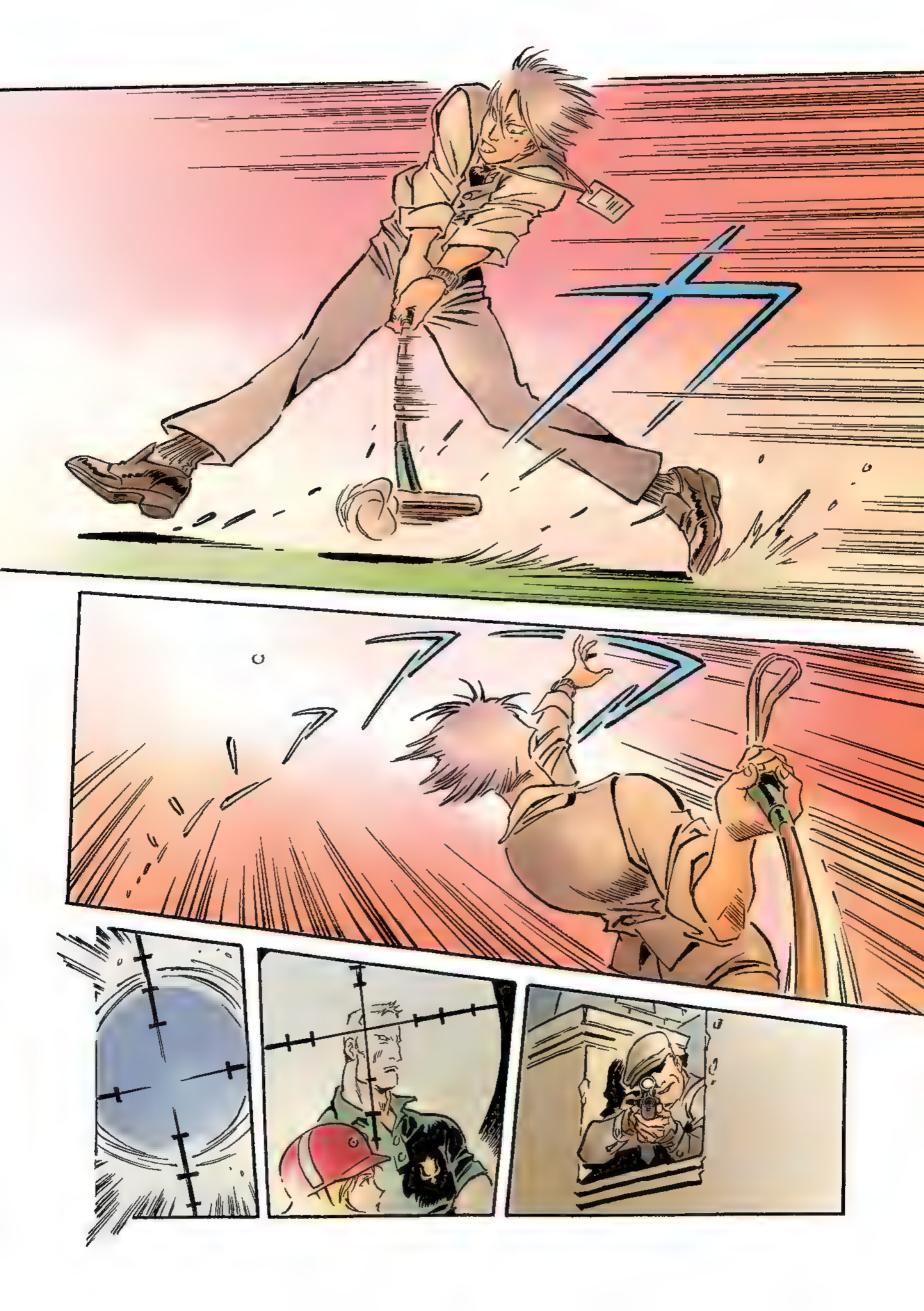


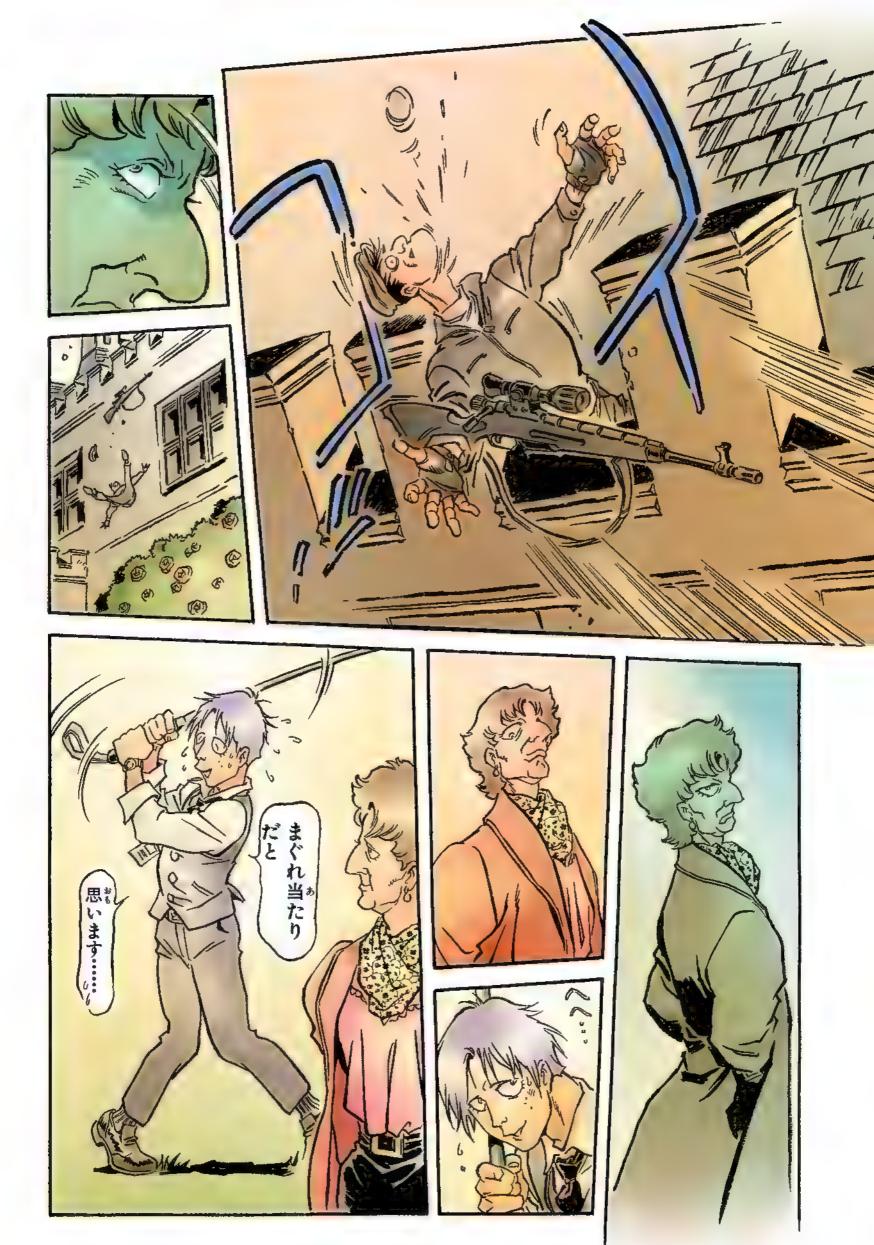
















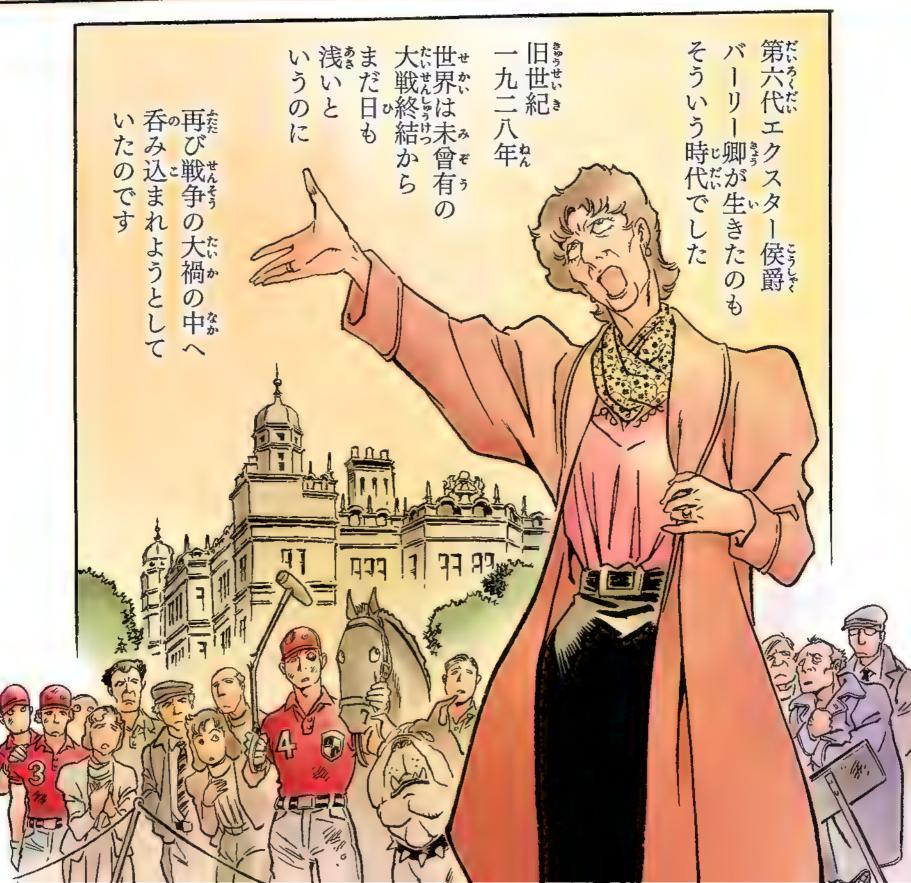








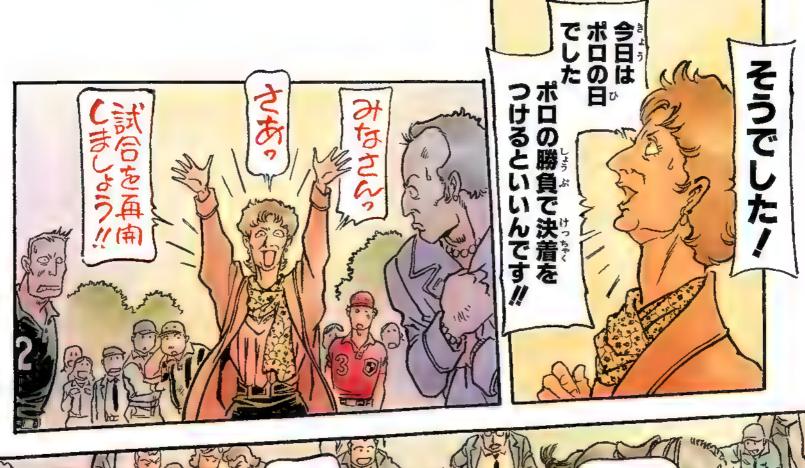


























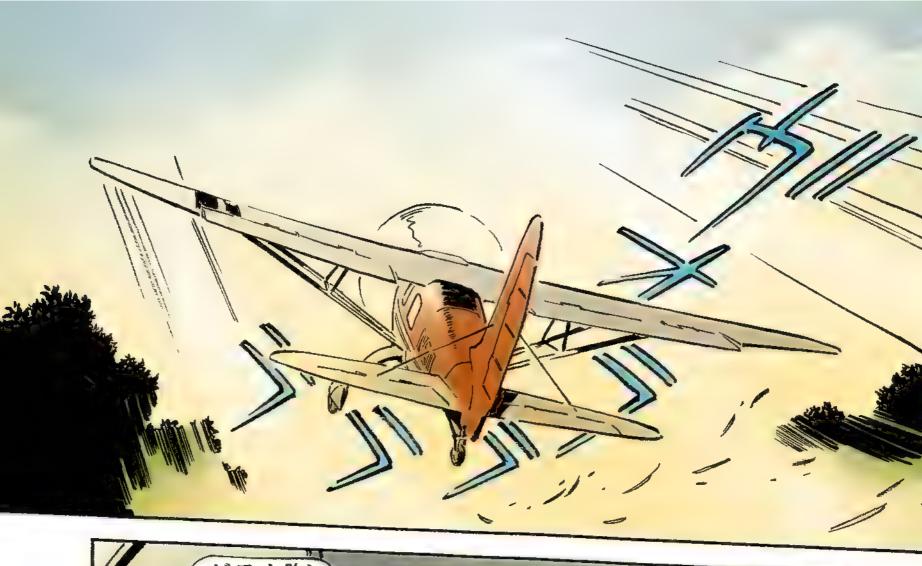












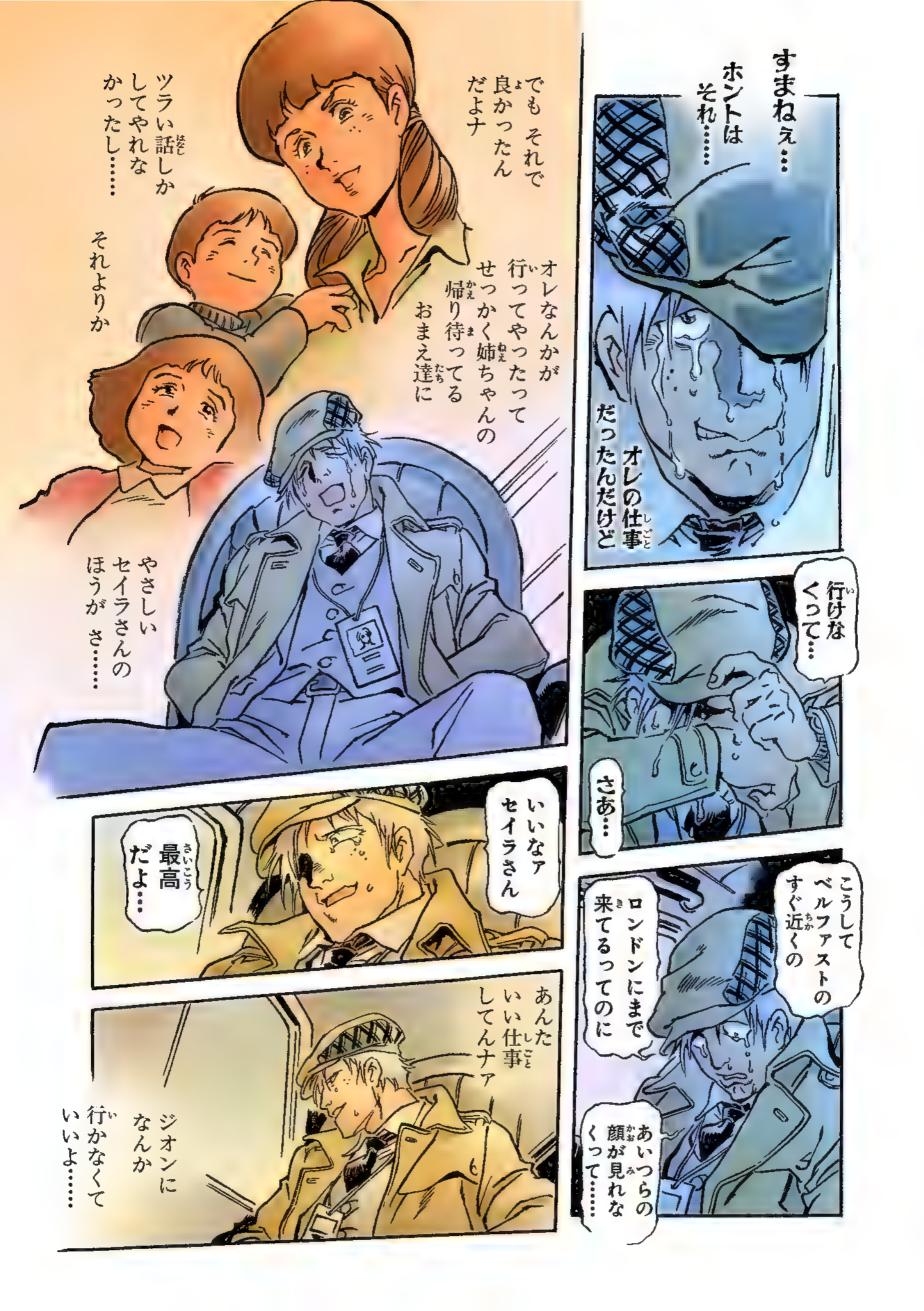


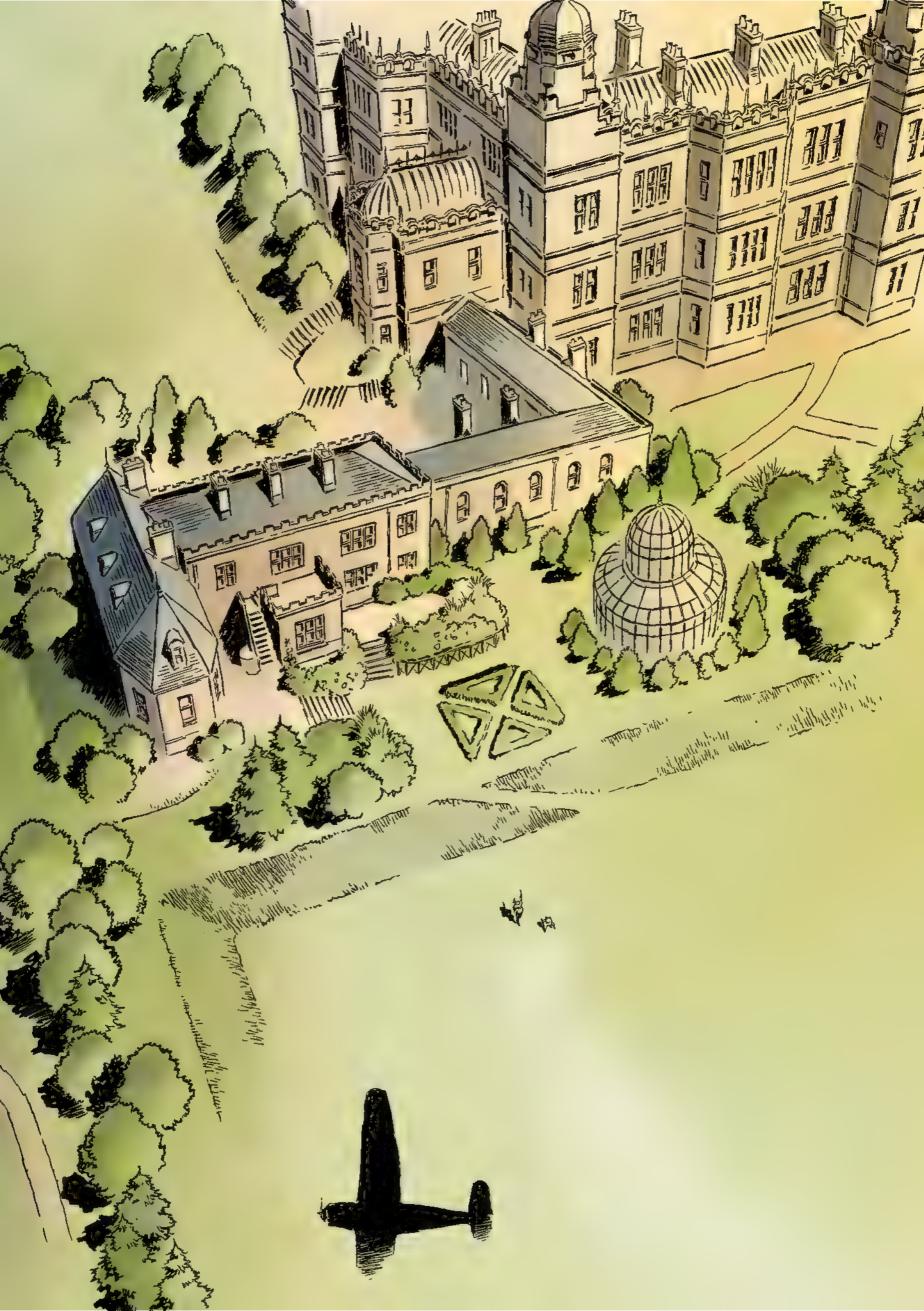




























らしいってのはサーバーリーハウスで































特別編の特別インタビュー

――終戦後のガンダムの世界を描くにあたってカイ・シデンを メインキャストに選んだ理由を教えてください。

安彦 カイが新聞記者になっているという設定は、ことぶきつかささんの『カイ・シデンのメモリー』で見て「これはありだな」といただいた。で、彼が特ダネを狙うとしたらセイラネタしかない。まあ、まだニセ記者段階ってことにしてるけどね。

――セイラはオリジン本編ではジオン蜂起を呼びかけましたが、 セイラがジオンに戻ろうとしなかった理由はどのあたりにあるの でしょうか。

安彦 1stのセイラは後ろの方に行くほどカゲが薄くなる。後日 談となると全く不明。「これじゃいかんだろう」とネジを巻いた。 「ジオンに戻らない理由」は読んでいただいてのとおり。え?分 からないかな? 描きかた、マズイのかな?

――ポロが有効的表現として使われていますが、ポロへの知識、興味は当初からあったのでしょうか? 逆に描いた上での苦労を教えてください。

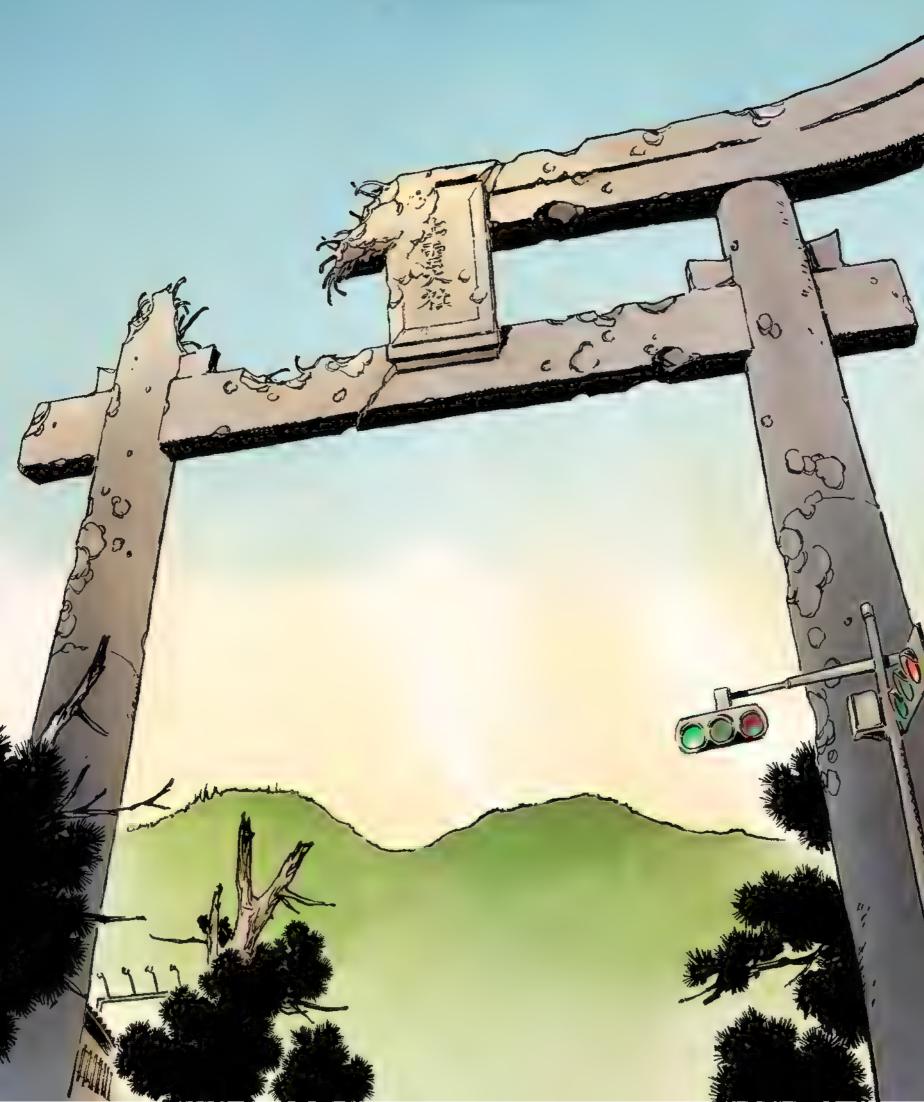
安彦 ポロ? 全く知らなかった。ルールも何も。当時担当だったT田君がいろいろ調べてくれた。かなりスゴいスポーツだねえ。イギリス貴族じゃなきゃ出来ない。オリンピック種目には絶対にならない。バーリーハウスは実在します。この設定もどこかで使いたかった。ポロといっしょに。

――ジルとミリーがその後財団の支援で元気に暮らしているというくだりは感動的でした。このエピソードを盛り込もうと思った理由を教えてください。

安彦 「放ってはおけない問題」って、1stにはいくつもあるんだよ。ジルとミリーもそう。でも、もろにとりあげるのはムズカしい。死んじゃってたりすると可哀想すぎるし、逆にたくましく生きてたりすると興ざめ(大金持になってたりして…)。描いていて、カイと一緒に僕も泣きました。セイラのその後も「これしかない」と思う。

摂動版士ガンダム THE ORIGIN

一アムロ0082一



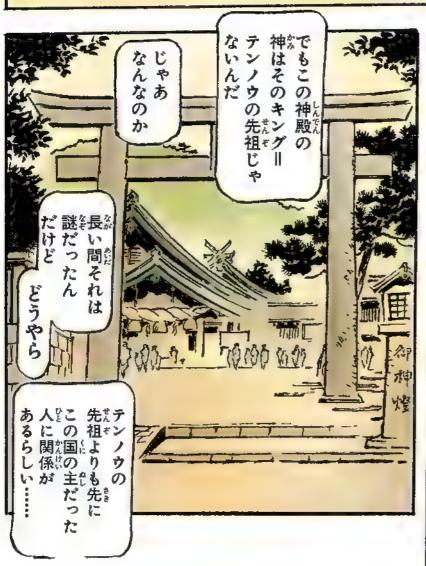
































































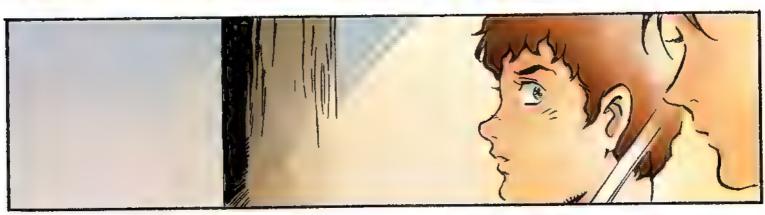












思わな

来るなんな日が

処へいいの



かな 帰って来たの を を うに



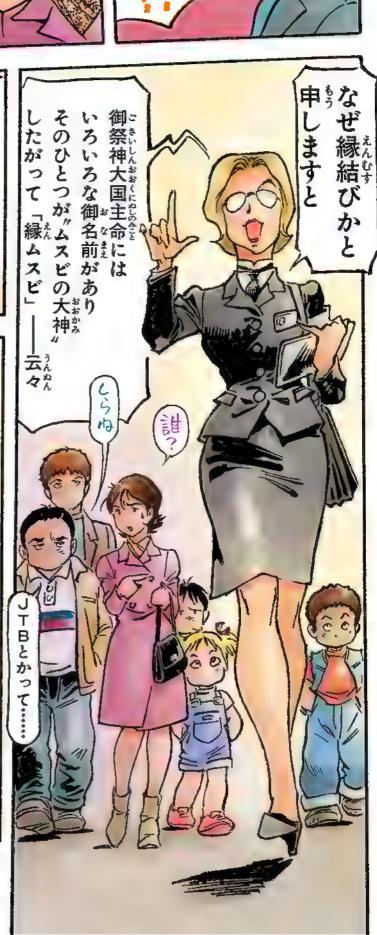


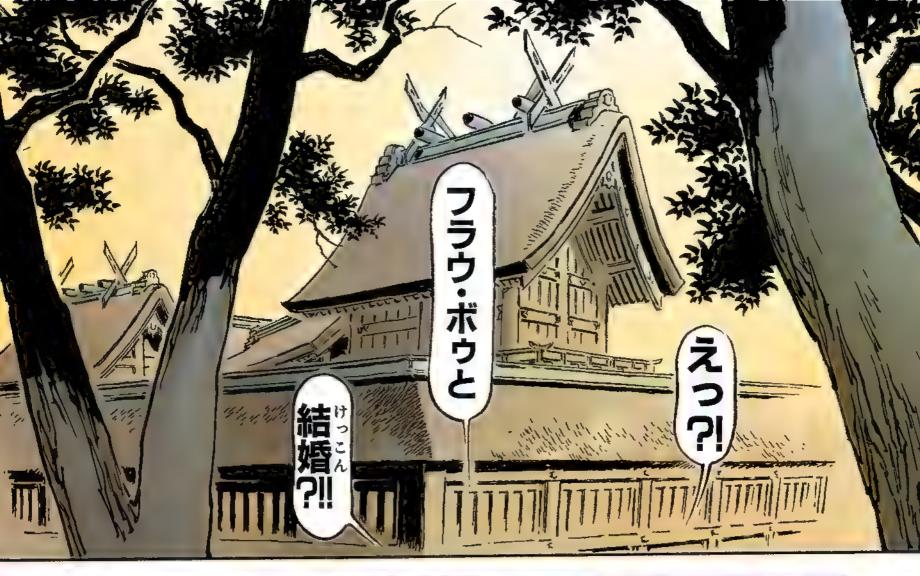












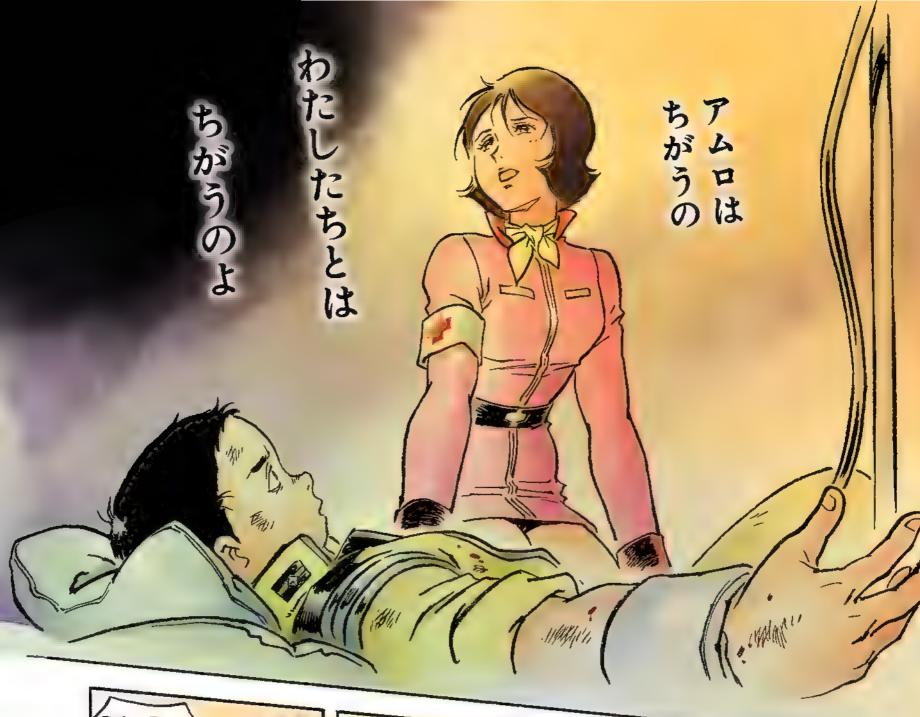
























僕のことを

ハヤト兄ちゃん

だから

じゃなくて











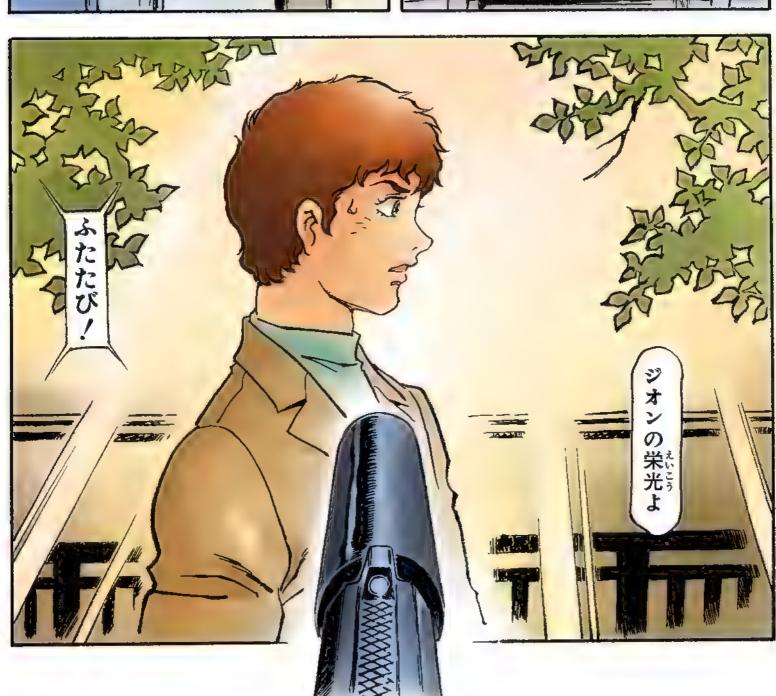










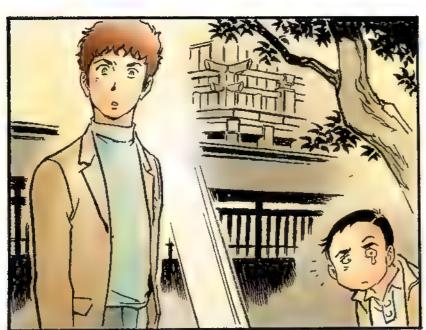










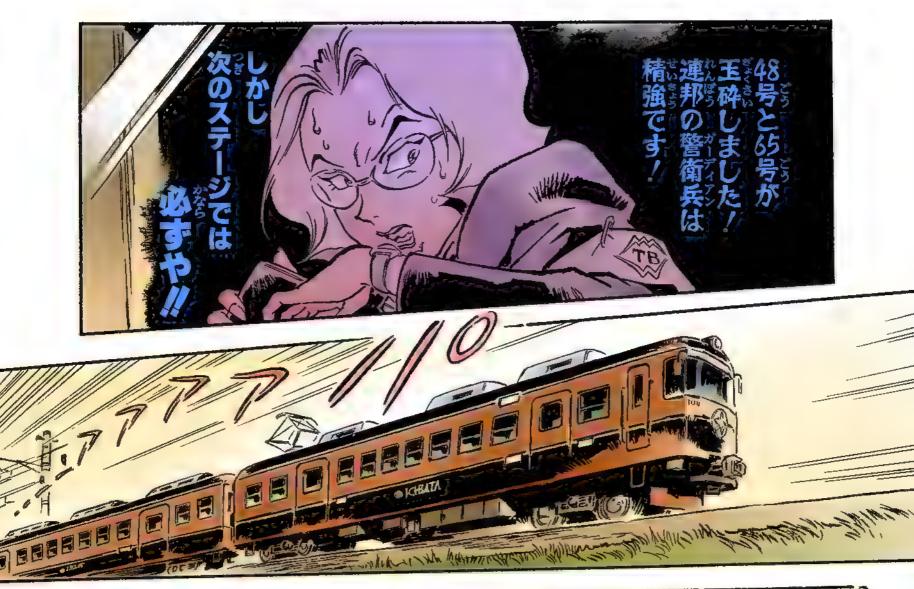






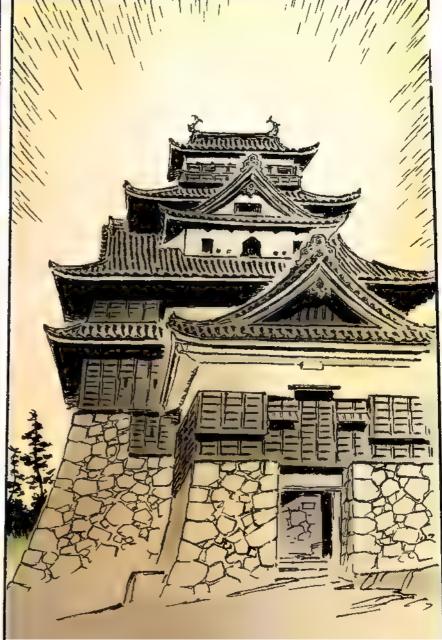










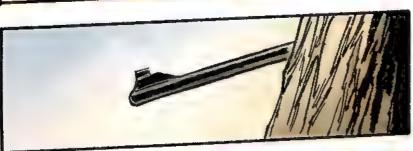














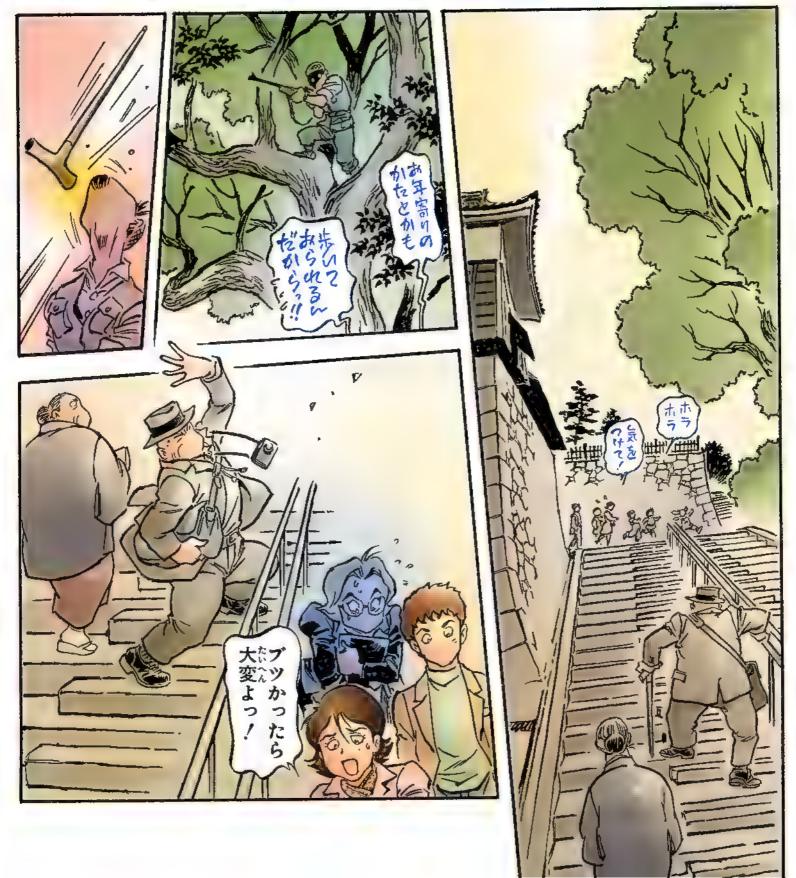


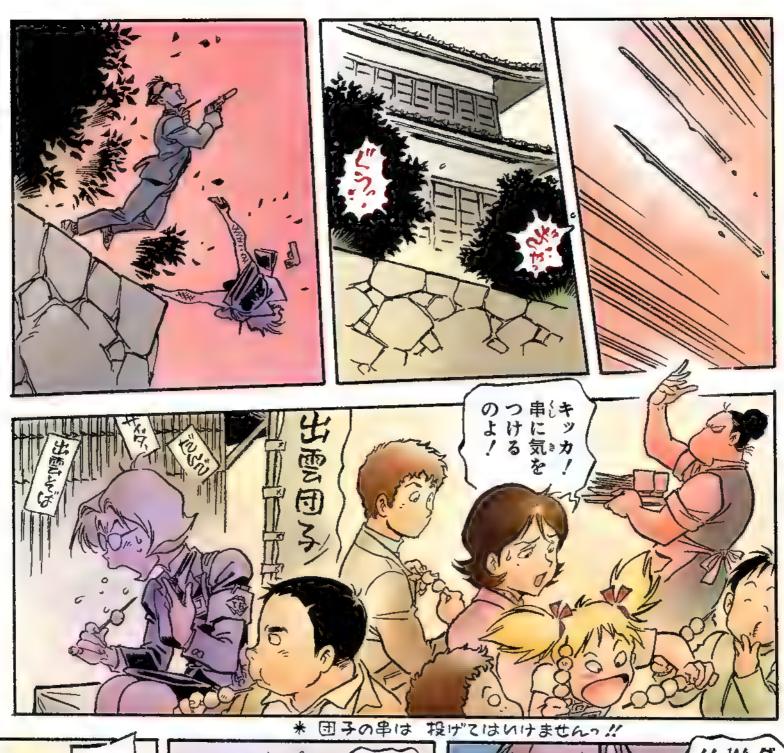














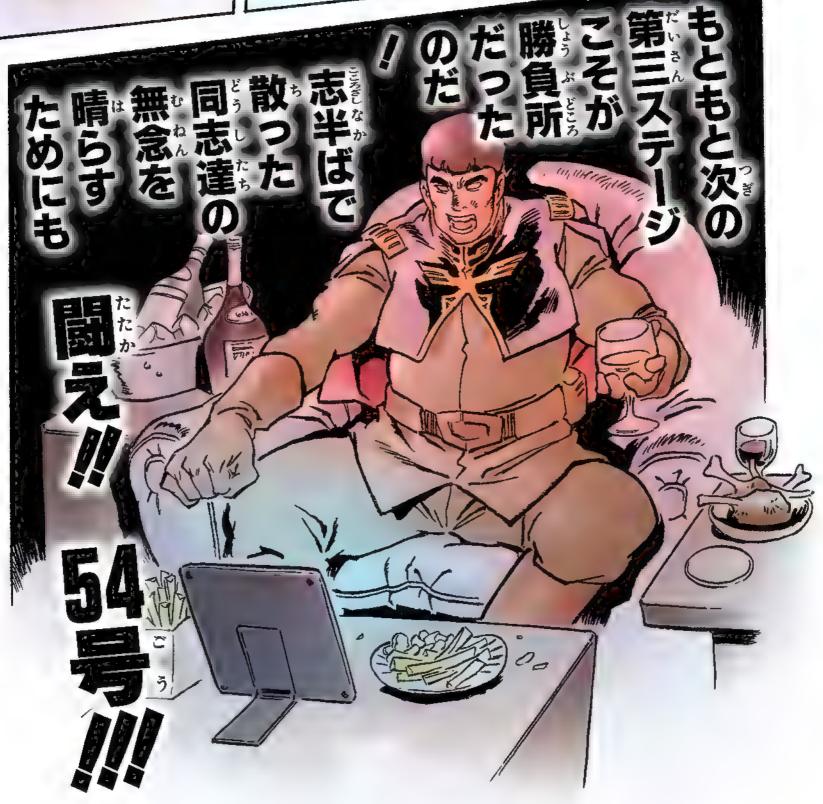


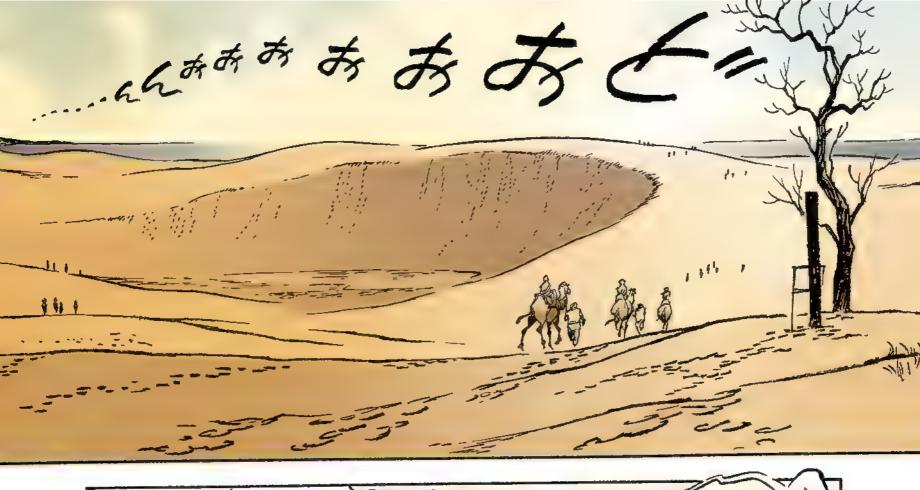






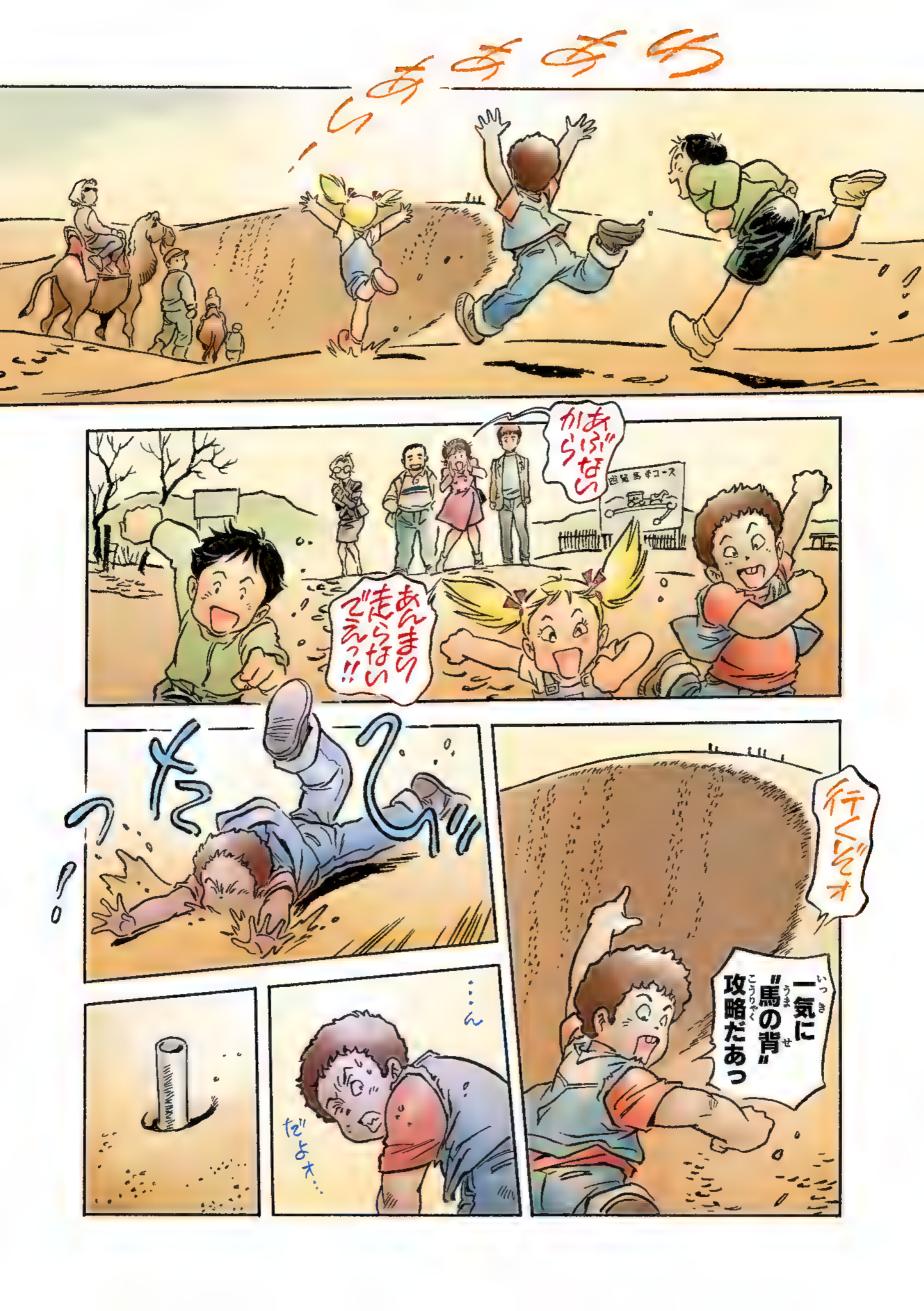




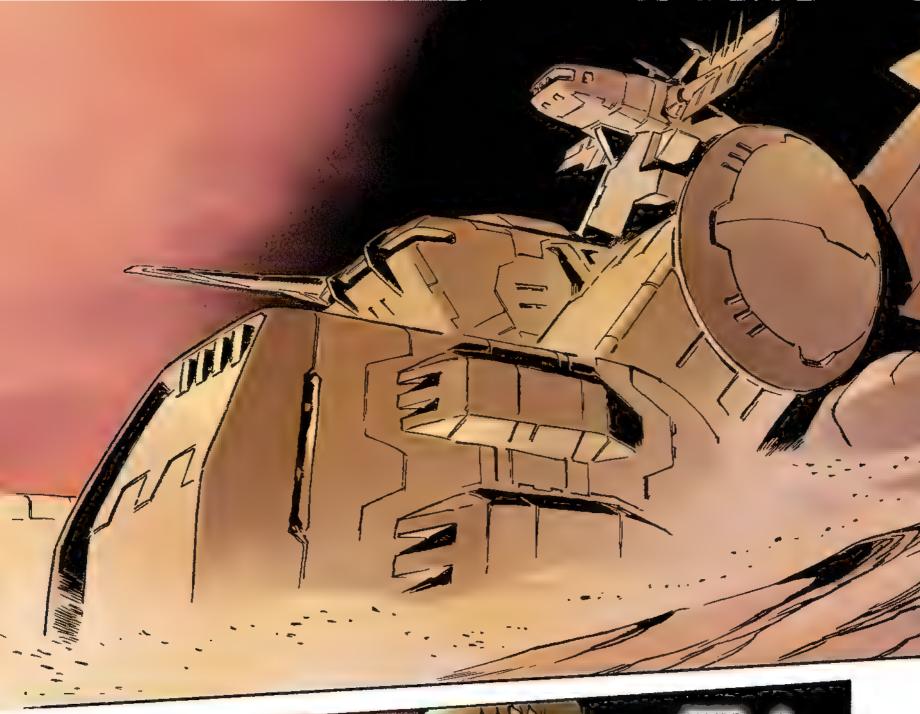






















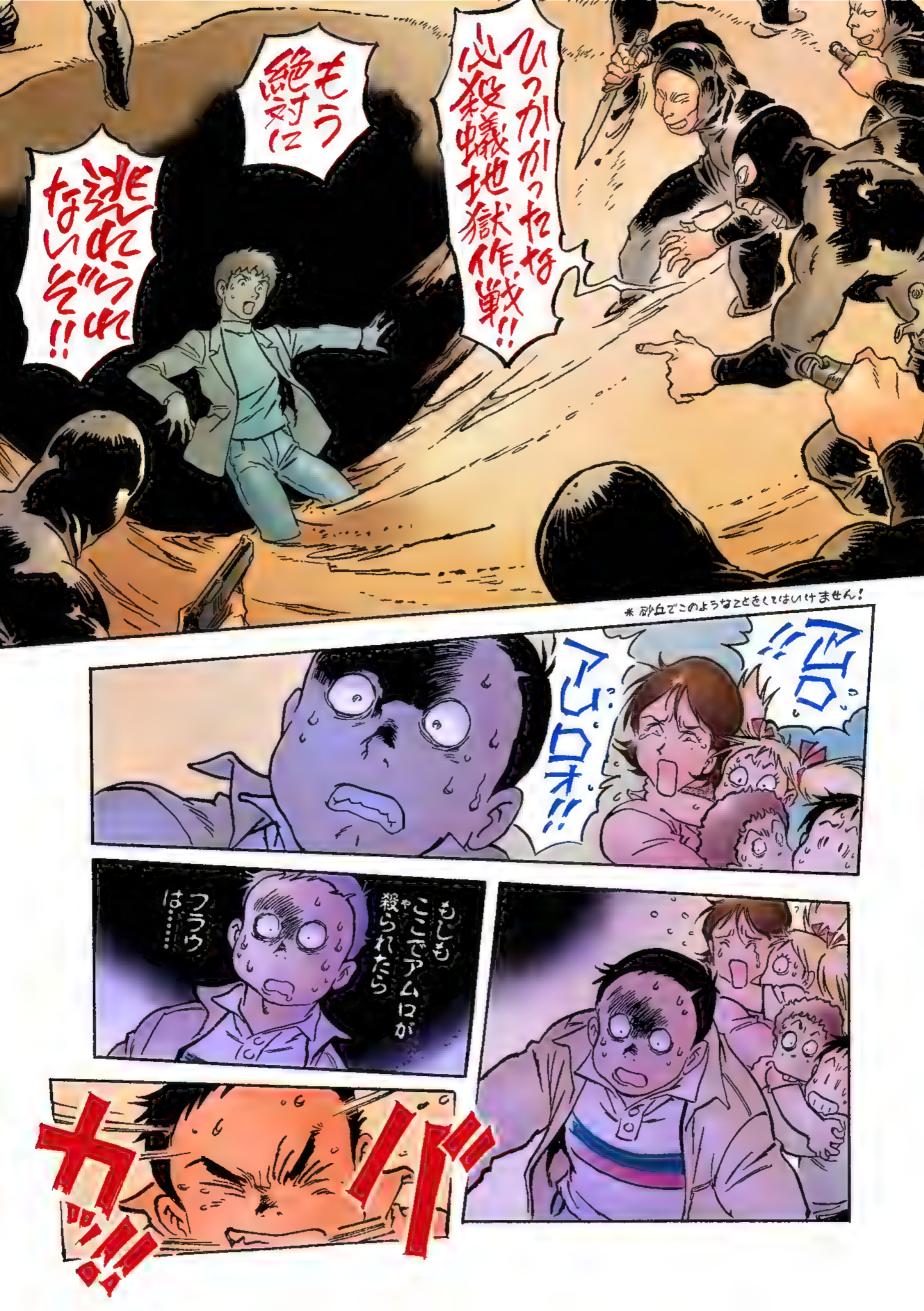




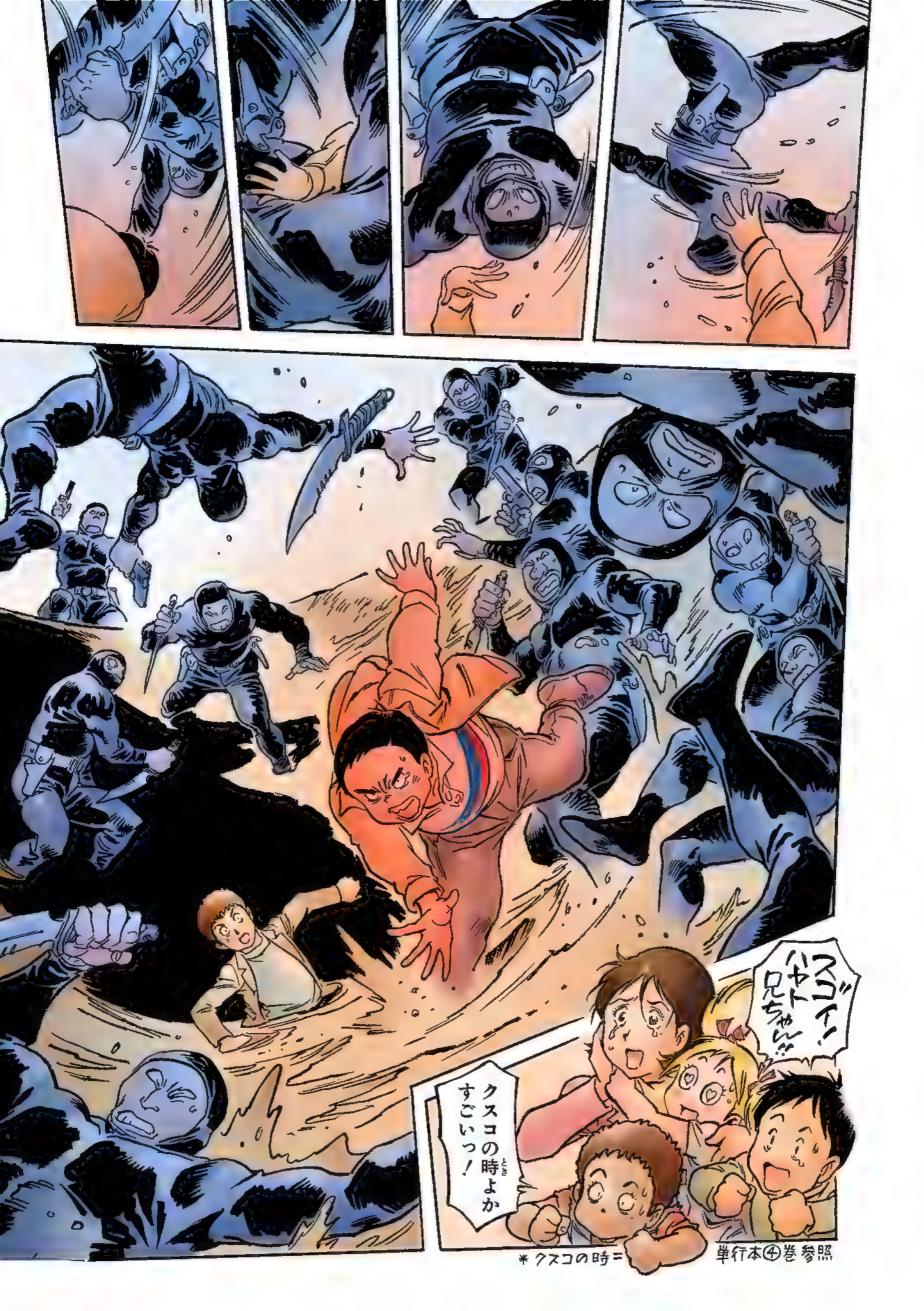








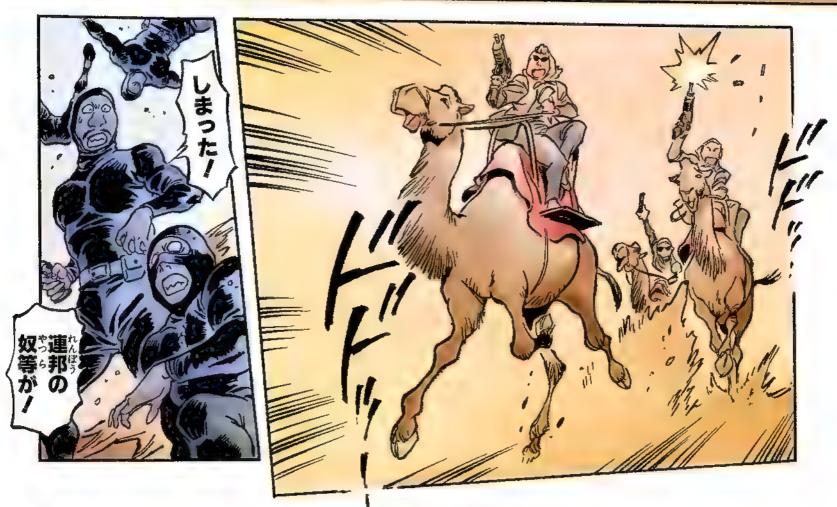


















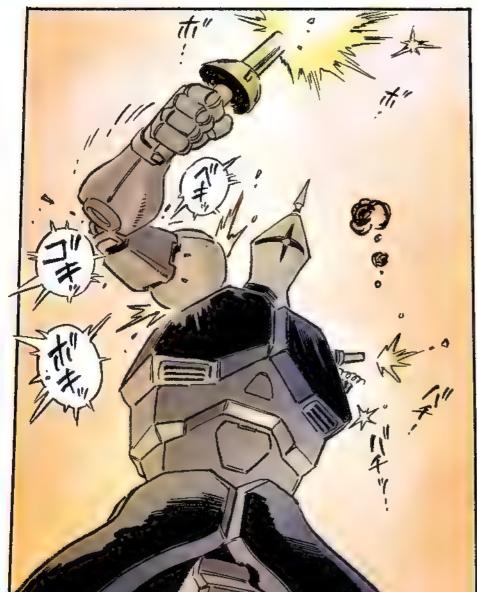










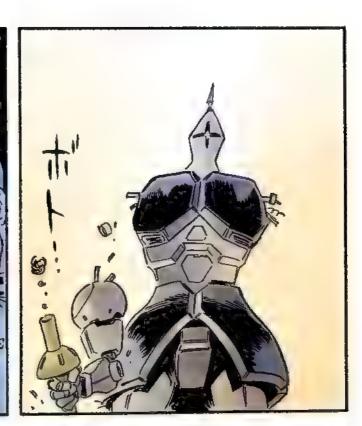














































































特別編の特別インタビュー

――舞台を日本の出雲にした理由を教えてください。

安彦 「サンイーン地方」にはずっとひっかかっていた。(何故「山陰」なのかは最近分かったけどそれは置いておいて…) 出雲にはちゃんとロケに行ったんだよ。前の月にシンポジウムのような用事で行っていたのに。またあのために…。いっぱい撮ってきた写真が役立った。あ、「理由」? ハヤトの御先祖の出身地だから。

――やはり先生の中でもフラウはアムロよりハヤトと結ばれる方が自然の流れだとお考えになりましたか。

安彦 それはそう。『ゼータ』の時、僕の意見としてそれだけ は富野氏に言った。それと実際にそうなっているのは関係ない だろうけど。

――最後のセリフ「人と人とがほんとうに分かりあえる社会を」 はいわゆるニュータイプ思想とは異なる印象を受けました。最 後のこのセリフにこめたメッセージを教えてください。

安彦 「いわゆるニュータイプ思想」というのが、どういうものか 僕は分かっていないのだけれど、どの道あやしげなものだと 思っている。「エスパーになら分かりあえる」というのは「現実には分かりあえない」ということの反語的表現。だから、「分かりあえたらどんなにいいだろう!」というのが1stガンダムの最大、唯一のテーマ。…と、言いきってしまうと味気ないのだけれど 言っちゃう。いろいろ曲解されているようだから。つけ加えると、このテーマは最近ますます重い意味を持ってきている。だから1stは「重い」んだ、と思う。

角川コミックス・エース

フルカラー版 機動戦士ガンダムTHE ORIGIN②

著者 安彦良和 原案 矢立肇・富野由悠季 メカニックデザイン 大河原邦男

2022年4月26日 発行 ver.001

- ©Yoshikazu YASUHIKO 2022
- ©創通・サンライズ

本電子書籍は下記にもとづいて制作しました 『機動戦士ガンダム THE ORIGIN』 (Comic Walker掲載)

発行者 青柳昌行 発行 株式会社KADOKAWA https://www.kadokawa.co.jp/

●お問い合わせ

https://www.kadokawa.co.jp/ (「お問い合わせ」へお進みください)

※内容によっては、お答えできない場合があります。

※サポートは日本国内のみとさせていただきます。

※Japanese text only

本電子書籍の全部または一部を無断で複製、転載、配信、送信すること、

あるいはウェブサイトへの転載等を禁止します。

また、本電子書籍の内容を無断で改変、改ざん等を行うことも禁止します。

本電子書籍購入時にご承諾いただいた規約により、有償・無償にかかわらず

本電子書籍を第三者に譲渡することはできません。

本電子書籍の内容は、底本発行時の取材・執筆内容にもとづきます。

本電子書籍を示すサムネイルなどのイメージ画像は、再ダウンロード時に

予告なく変更される場合があります。

また、ご覧になるリーディングシステムにより、表示の差が認められることがあります。

この物語はフィクションであり、実在の人物・団体名とは関係がございません。

装丁・デザイン 福島トオル(Smile Studio) カラーリスト 凸版印刷株式会社

